

助成事業報告集

2020年度助成対象事業要覧



Kiguchi Foundation
公益財団法人 木口福祉財団

も く じ

- 2020年度助成事業の概要 P 2
 - 1. 助成事業の趣旨
 - 2. 助成内容
 - 3. 助成予定額
 - 4. 公募
 - 5. 助成対象の選考
 - 6. 選考結果の通知および助成金の交付
 - 7. 対象事業の完了報告
- 2020年度助成対象事業一覧 P 4
- 選考委員 P 106

2020年度助成事業の概要

1. 助成事業の趣旨

公益財団法人木口福祉財団は、福祉活動やボランティア活動等の事業に対する助成を通じ、市民参加型福祉の促進と地域振興をはかり、障がい者等の社会的に弱い立場におかれている方々にやさしい、明るく住みやすい地域社会の創造に資することを目的としています。

2. 助成内容

地域福祉振興助成

地域福祉振興助成は、障がい者や社会的弱者を支援する福祉活動やボランティア活動で、特に公的補助を受けることが困難である団体などに必要資金を助成します。

(1) 対象団体

障がい者や社会的弱者を支援する福祉活動及びボランティア活動に取り組む団体・グループ

(2) 対象事業

- 講演会・講習会・イベントの開催費用
- 広報、調査、研究、出版の費用
- 工事費
- 器具、備品、車両などの物品購入費用
- 新規事業の活動運営費用

3. 助成予定額

年間の助成金総額 45,000,000円

4. 公募

(1) 公募案内

助成金公募の案内は、事前に当財団のホームページ、社会福祉協議会の機関誌、その他関係団体の機関誌などを通じて実施し、WEBで公募の受付をしました。

(2) 公募期間

2020年2月3日から2月28日まで

(3) 応募件数

135件

5. 助成対象の選考

(1) 一次選考

すべての申込案件について、4名の選考委員が書類選考を実施しました。
一次選考による結果 97件

(2) 聞取り調査の実施

一次選考を通過した97件について、7月から8月にかけて聞取り調査を実施しました。

(3) 最終選考

2020年度の助成対象団体は、選考の結果下記の通り決定しました。

助成件数と助成総額
58件 36,680,000円

6. 選考結果の通知および助成金の交付

(1) 選考結果の通知

すべての申込案件について、選考の結果を書面で通知しました。

(2) 助成金の交付

各団体と「助成金に関する覚書」を交わし、振込みで交付しました。

7. 対象事業の完了報告

助成対象事業の完了後、各団体より所定の書式で事業完了報告の提出を受けました。

2020年度 助成対象事業一覧

地域福祉振興助成 講演会・講習会・イベント

(大阪府)

P7 特定非営利活動法人DDAC

(兵庫県)

P9 特定非営利活動法人Birth神戸

P11 関西知的障がい者サッカー連盟

地域福祉振興助成 広報・調査・研究・出版

(青森県)

P13 CFS(慢性疲労症候群)支援ネットワーク

(宮城県)

P15 きこいろ(片耳難聴コミュニティ)

(兵庫県)

P17 特定非営利活動法人ひょうごセルフヘルプ支援センター

P19 人権書道きらきら

地域福祉振興助成 工事

(岩手県)

P21 特定非営利活動法人みやこ自立サポートセンター

(宮城県)

P23 一般社団法人こねくと

(埼玉県)

P25 特定非営利活動法人福祉ファーム里山

(東京都)

P27 社会福祉法人年輪

(愛知県)

P28 特定非営利活動法人ドリーム

(兵庫県)

P30 一般社団法人カレッジ

P31 特定非営利活動法人言語障害者の社会参加を支援する会しゃべろーよ

P33 一般社団法人みみずく耕房

(岡山県)

P35 社会福祉法人倉敷夢工房

P37 特定非営利活動法人工房かたつむり

- P39 特定非営利活動法人おしあげ
P40 社会福祉法人めやす箱
(山口県)
P42 特例認定特定非営利活動法人とりで

地域福祉振興助成 物品購入

- (岩手県)
P44 特定非営利活動法人カトリア会
(宮城県)
P45 社会福祉法人つどいの家
P48 特定非営利活動法人水梨かふえ
(福島県)
P50 特定非営利活動法人ふよう土2100
(神奈川県)
P52 社会福祉法人宝安寺社会事業部
(石川県)
P54 特定非営利活動法人あんとふる
(愛知県)
P55 特定非営利活動法人響愛学園
(京都府)
P57 特定非営利活動法人社会的就労支援センター京都フラワー
(大阪府)
P60 特定非営利活動法人キャンピズ
(兵庫県)
P61 特定非営利活動法人陽だまり
P63 特定非営利活動法人ヘルパーGOGO
P64 社会福祉法人芳友
P65 社会福祉法人兵庫盲導犬協会
P67 特定非営利活動法人ラーフウッド福祉会
P68 特定非営利活動法人創作工房ゆう
P70 特定非営利活動法人江井ヶ島作業所
P71 社会福祉法人明桜会
P73 特定非営利活動法人淡路障害者連絡会
P75 特定非営利活動法人兵庫大阪ヒューマンホープ
P77 特定非営利活動法人セルフサポートいずし
P79 西脇・要約筆記ちょうちょ
P81 テープライブラリー宝塚

- P83 株式会社TunagDesign
- P84 社会福祉法人さつき福祉会
- P86 八鹿RVCひよっこ
- P88 社会福祉法人朝来市社会福祉協議会
- P90 社会福祉法人宍粟市社会福祉協議会
- P92 特定非営利活動法人しさわ
(和歌山県)
- P93 特定非営利活動法人和歌山自立支援センター
(岡山県)
- P95 社会福祉法人リンク
- P97 特定非営利活動法人くらげ
- P99 特定非営利活動法人ひなたぼっこの会
- P100 特定非営利活動法人のぞみ
(宮崎県)
- P102 特定非営利活動法人すまいる

地域福祉振興助成 新規事業

- (兵庫県)
- P104 特定非営利活動法人ガジユマルの船

特定非営利活動法人 DDAC

<http://www.adhd-west.net/>

【所在地】 大阪府大阪市

【対象者】 発達障がい者

【日常の活動】

当会は2002年より18年にわたり、大人の発達障がいのセルフヘルプグループ「関西ほっとサロン」の運営を続けてきました。発達障がいのグループは、当事者によるグループの運営は困難であるという意見もあるなか、当会は「関西ほっとサロン」の活動を通じて、継続可能な運営に必要な場所づくりを確立しており、安定的に活動が続けられるグループを地域に増やすため、ピアリーダーの養成事業を継続して行っています。また大人の発達障がいについて、企業、自治体・教育機関などからの依頼に応じて、年間50本の講演活動を行い、大人の発達障がいへの正しい理解を広げるための啓発活動を行っています。

「NPO 法人 DDAC 10 周年記念イベントの開催」

【助成額】 20万円

実施目的

当会が設立されてからの10年間で、発達障害を取り巻く環境は大きく変化しています。障害の知名度が高くなり、発達障害と診断される人が年々増加しており、社会問題の一つともいえる状況になりつつあります。

また2014年の「障害者権利条約」の批准により「障害」そのものへの捉え方も大きく変わろうとしています。障害への「合理的配慮」が求められ、地域や職場で受け入れ側の戸惑いの声も多く聞かれる中、当事者（及び周辺の人）は自分の障害について理解し、適切な配慮を得られるよう働きかける必要があります。このような状況を踏まえ、10周年記念イベントでは障害のあるなしに関わらず、その場に共に暮らす全ての人が互いに理解し、尊重し合うための『対話』の場づくりを行うことを目的としました。

本来なら、申請通りに100人の参加者に会場に集まっていたが、コロナ禍の中、不要不急の外出の手控え、三密の回避、会場の制限等を踏まえ、「リアル」開催を断念し「オンライン」（ZOOM）により開催することになりました。

タイトルを「NPO法人DDAC－10周年記念イベント 発達凸凹100人会議第2弾 オンラインダイアログ『すべての人の凸凹が生かされる社会へ』～発達障害・発達凸凹が生きやすい社会は、すべての人が生きやすい社会である～」と銘打ち、当事者（発達障害・発達凸凹をもつ本人）が自分らしく生きていくための条件を5つのテーマに沿ってゲストとともに話し合いました。第1回から第5回はゲストを招いてパネルトーク、最終第6回には参加者全員でのオンライングループディスカッションを企画しました。

実施内容

【1】 3月7日（日）14:00～ テーマ① YouTube Live 配信

テーマ① 「主体的に生きる」デモクラティック・サポート

～本人の自分らしい生き方（ウェルビーイング）を支援するとは～

ゲスト:玉木幸則氏（一般社団法人兵庫県相談支援ネットワーク代表理事、Eテレバリバラ コメンテーター）

参加者:42名

【2】 3月14日（日）14:00～ テーマ② YouTube Live 配信

テーマ② 「教育」超インクルーシブ教育 ～本人が自分らしい人生を送るための「教育」～

ゲスト:井上雅彦先生（鳥取大学医学部大学院教授）

赤木和重先生（神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授）

参加者:58名

- 【3】 3月14日(日) 17:00～ テーマ③ YouTube Live 配信
 テーマ③「働く」ダイバーシティ就労 ～本人がいきいきと生きていくために「働く」～
 ゲスト:窪 貴志氏(株式会社エンカレッジ代表取締役)
 参加者:58名
- 【4】 3月20日(土) 14:00～ テーマ④ YouTube Live 配信
 テーマ④「地域」ソーシャル・インクルージョン
 ～本人がいきいきと生きていくための「地域・コミュニティ」～
 ゲスト:首藤義敬氏(株式会社Happy代表取締役)
 出村沙代氏(凸凹フューチャーセンター共同代表)
 参加者:55名
- 【5】 3月20日(土) 17:00～ テーマ⑤ YouTube Live 配信
 テーマ⑤「ピア」エンパワメント・グループ ～セルフヘルプグループで大切なこと～
 ゲスト:松田博幸先生(大阪府立大学地域保健学域准教授)
 参加者:54名
- 【6】 3月21日(日)14:00～ まとめ ZOOMミーティング
 5つのテーマの内容をグラフィックで共有し、ZOOMを利用し府ループワークにて対話で更に深めた
 参加者:30名
 【延参加者数】:297名



得られた効果

本会のこれまでの活動は、発達障害の当事者を対象に、且つ、主体に行ってきましたが、今回のイベントでは発達障害当事者以外のあらゆる立場の方々が参加下さり、それぞれの立場から建設的な意見をいただくことができました。

「すべての人が生きやすい社会」の実現を目指す本会にとって、非常に有意義なイベントとなり今後の活動に大いに生かすことができると確信しています。

また、本会にとってオンラインでイベントを行うことは初めての試みであり、運営上決して成功したとは言い難い側面があったものの、今後の活動の幅を広げる可能性が大いに広がったことも事実と思っています。

【各テーマの録画は下記のURLをご参照下さい】

■ テーマ①「主体的に生きる」:<https://youtu.be/1YvsLcj15n0> (前半)

<https://youtu.be/5xtVkEmXfDo> (後半)

■ テーマ②「教育」:<https://youtu.be/pSAighioV2c> (前半)

<https://youtu.be/ZVJ2M4Ecol8> (後半)

■ テーマ③「働く」:<https://youtu.be/vMY0uq2J5M8> (前半)

<https://youtu.be/laEZ26E0A1s> (後半)

■ テーマ④「地域」:<https://youtu.be/Dc-HQeDqIKY>

■ テーマ⑤「ピア」:<https://youtu.be/ip7hla0Np28>



今後の課題

上記したとおり、本会の活動は当事者を対象としたものが多く、当事者以外への発信力が弱かったように思います。当事者の「生きづらさ」や「しんどさ」に焦点を当ててきましたが、今後は、「すべての人が生きやすい社会」を目指すために、今回のようなイベントを数多く実施し、その啓蒙活動を実施していく必要を強く感じました。

特定非営利活動法人 Birth 神戸

<http://birth-kobe.ciao.jp/>

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者

【日常の活動】

■障害福祉サービス事業所「就労継続支援B型・Birth生田川」

- ・アート&デザイン活動：オリジナルポストカード制作、フライヤーポスター制作、イベントグッズ制作、漫画コミック創作
- ・企業からの受注作業：輸入絵具の検品シール貼り、情報誌ポスティング他
- ・トマトスープパスタの販売：イベント時
- ・PC実践サポート：企業への納品書、会計他

■表現活動レクリエーション(音楽)活動内容

- ・音楽パフォーマンス活動・楽団「Birthコウノトリ」

月2回、土曜日リハーサル実施

出演実績：2018年度10回 2019年度9回

出演履歴(抜粋)：2019/9/8 続・魂の宴♪届け心のメロディー@神戸太陽と虎

2019/9/20 愛音楽(アネラ)音楽祭in神戸@新長田ピフレホール 審査員感動賞受賞

「魂の宴♪届け心のメロディー」

【助成額】 11万円

実施目的

当法人の活動理念である「表現する」ことをテーマに、障害を持つ人達が音楽やパフォーマンスを通じて「生きること」を表現することで持っているチカラを発揮し、社会へ発信する機会を創出する。地域の障害者作業所や障害を持つアーティストと一緒に企画を創り上げていくことで、当法人の自主事業の枠を越えた取り組みを行い、地域ネットワーク形成の中で障害を持つ人達の表現活動をより一層活発にして、苦境に立たされている神戸のライブハウス文化に寄与することも目的とする。

実施内容

実施場所:ライブハウス神戸太陽と虎

実施内容:新型コロナウイルス感染症予防対策として、無観客 YOUTUBE 生配信ライブを開催。

- ・6組の障害を持つアーティストによる演奏を生配信。
- ・アーカイブ動画を3月末までの期間、YOUTUBEにて配信中。
- ・障害を持つアーティストの活動風景及び団体紹介映像を制作。当日会場スクリーンに投影。
- ・「Birth コウノトリ」(NPO法人 Birth 神戸メンバーによるバンド)メンバーそれぞれの想いを込めたオリジナルソング(4曲)のレコーディングを実施(2020年10月)し、ライブ当日会場のオープニング映像等で活用した。

得られた効果

1. 表現活動を通じて、障害を持つ人達が社会へ発信する機会を創出し、当事者としての自信、生きる肯定感を育てることができる。
2. 配信を通じて、広く社会へ発信することができ、社会に向けて障害理解を深める。アーカイブ動画は再生回数1,000回を越えている。
3. 障害を持つ人達が普段あまり行く機会の少ないライブハウスでイベントを開催することで社会 経験の幅を広げ、また苦境に立たされている神戸のライブハウス文化に寄与する。
4. ライブを通じて、障害を持つ人達が互いの演奏を励ましあい、ヨコのつながりを深め、地域包括的なネットワークづくりを進めることができる。

今後の課題

新たな課題として、コロナ禍で地域のコンサートが激変している状況の中で、発信する場の確保策として事業所から生配信できる環境(設備)を揃えたい。障害を持つ人達が社会へ向けて発信し続ける機会を絶やさないよう、活動を継続していく。

関西知的障がい者サッカー連盟

【所在地】 兵庫県加古郡播磨町

【対象者】 知的障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

知的障がい者サッカー大会の開催、トレセン活動

「関西知的障がい者サッカースクール」

【助成額】 29万円

実施目的

関西圏に住む未就学児、小中学生を主な対象とした知的障がい者サッカーの普及活動また、今後の普及活動に関わる人材育成も同時に目的としている。

実施内容

J-green堺屋内フットサル場

9:00～スタッフ集合、打ち合わせ

10:00～受付開始

10:30～サッカー教室開始

（40名参加、3グループに分かれてスタート）

12:00～サッカー教室終了

12:30～アンケート記入、閉会式

13:00サッカー教室終了、スタッフ反省会



得られた効果

コロナウィルス感染拡大の影響により参加人数等に配慮した結果、参加人数や参加府県を限定して開催となったが、40名の参加者が集まっていた。開催にあたり参加希望の方も多くあり、コロナウィルス感染対策として参加を断らざるを得ない参加希望者もあったことから、知的障がい者サッカーのニーズが高まっていることが改めて確認できた。

参加者の皆様の笑顔が多くみられて、保護者の方にも是非次回開催をしてもらいたいというお言葉をいただき実りのある活動になったと感じた。これまでサッカーがしたくてもできる場所がなかった子どもたちが一緒になってサッカーと触れ合えたことでサッカーを始めるきっかけになれたと感じる。また、知的障がい者サッカーチームのスタッフとの出会いが、今後子どもたちがサッカーを続けていける受け皿となったことも良い機会であった。

教室開催に当たりスタッフ、ボランティアを合わせ10名の方にご参加いただき、教室を運営することができたことで、今回のような規模ではなくとも、助成金で購入させていただいた物品を使って関西各府県でのサッカー教室開催も可能であると感じた。

今後の 課題

団体の課題としては、やはり財政的に乏しいこともあり、参加者負担が大きいことである。参加したくても財政的に厳しい選手はできない状況が続いているので、継続的にサポートしてもらえたり、団体としてスポンサーを獲得する、登録料制度を作り、多くの方に少しずつ団体運営に係る費用の捻出など改善していく必要がある。また、知的障がいのある子どもたちが、サッカーができる場所を確保していくことも課題である。各府県を見渡すとまだまだ障がい者サッカーの受け皿が少なく、健常児と混ざってサッカーができる環境もないに等しいため、我々が率先してサッカークラブと関わりを持ち、障害のあるないに関わらずみんながサッカーを楽しめる環境を作っていくことも大きな課題であると感じた。



CFS（慢性疲労症候群）支援ネットワーク

<https://cfs-sprt-net.jimdofree.com>

【所在地】 青森県青森市

【対象者】 難病患者

【日常の活動】

患者や家族の孤立を防ぐために、年に2～3回患者交流会を全国各地で行っている。そこでの患者の声を行政に届けるために、厚生労働省・文化科学省・国土交通省・消費者庁など関連省庁との懇談会、勉強会の開催や、地方行政との懇談や支援の申し入れをしている。また衆議院会館において、病気の周知を行った。専門職への周知のために青森県立中央病院にて院内セミナーを開催した。患者が医療や福祉に繋がるために、市民公開講座も毎年5月の啓発事業の際に開催し、ME/CFSの理解を深める活動をしている。

「小冊子『ME/CFS の生活の手引き』作成」

【助成額】 100万円

実施目的

ME/CFS 患者に関する書籍は出版されているものの数は少なく、医師による病気の解説はあっても、患者の生活や支援についての情報が乏しかった。ME/CFS は治療方法が発見されていない難病であり、患者は病を抱えて長く生活していかなければならない。そのため、病気そのものだけでなく、生活の相談や心のケア、福祉制度や災害時の対策などの情報が必要になる。そこでそれらの情報をコンパクトにまとめた小冊子を作成し、患者の生活環境の向上に寄与したいと考えた。

実施内容

ME/CFS 患者の患者と患者家族、支援関係者のための生活の手引きをテーマとしたA5 サイズ24 ページ（表紙含む）小冊子を作成、配布した。

その内容は、・ME/CFS について・診断基準・小児ME/CFS について・ME/CFS の診断や治療が受けられる医療機関・病気や生活の相談・心のケア・患者を支える医療福祉制度・モデルケースで知る医療福祉制度・ME/CFS 患者さんの災害対策・書籍紹介など、患者さんの生活の全方面の助けになることを目指しました。

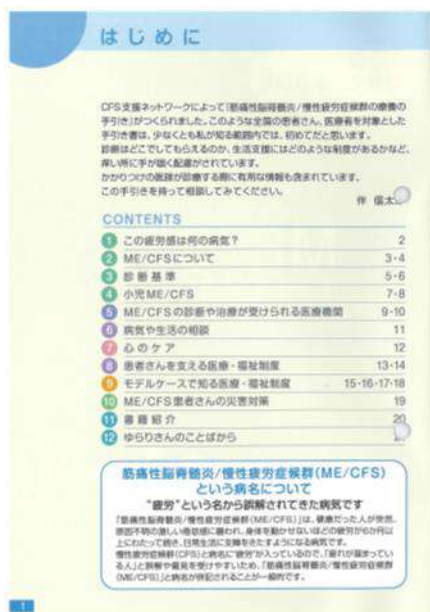
小冊子は、CFS 支援ネットワークの会員、全国の難病相談支援センターや保健所、医療機関、メディカルソーシャルワーカー協会等の職能団体に配布しました。

また、当会ホームページ上でも、PDF ファイルをダウンロードできるようにした。

得られた効果

今回作成した冊子を通じて、患者が周囲の理解を得やすくなった。これまで、どこにどう相談してよいかわからず、一人で抱え込んでいる多くの患者・家族へ、適切な相談先や医療機関情報を提供することができた。また、医療者や相談員など支援職側にとっても、有益な情報がまとまっているとの評価をいただいております。患者への支援をスムーズに行うための有効なツールとしても活用されている。冊子を手にした患者・家族からは、こんな冊子が欲しかったとたくさんの感謝の声が届いている。日本で初めての冊子ということで、4つの新聞に取り上げられ、一般社会への啓発にもなった。

ME/CFS の診断・治療をしている専門外来は、全国的に少なく、専門医の高齢化により今後も減ることが予想されるため、医療関係者への疾患啓発や診療普及のためにも、医学学会等へブース出展し、冊子を配布したい。今後の増刷について検討しているが、経費の問題をどうクリアするかが今後の課題。



きこいろ（片耳難聴のコミュニティ）

<http://kikoiro.com>

【所在地】 宮城県気仙沼市

【対象者】 身体障がい者

【日常の活動】

片耳難聴者のQOL向上のための活動を行う。現在会員83名。

1. 交流会の実施（全国各地にて。累計参加者約60人）
2. 専門職による勉強会と個別相談会の開催（全国各地にて。累計参加者約40人）
3. WEBサイトやSNSによる片耳難聴に関する情報発信（現在フォロワー数1300人、記事数22）
4. 関係者への講演・研修等の啓発活動
5. 新聞社やTVなどメディアを活用した啓発活動（4社）
6. 関係機関等へのリーフレットの配布
7. その他、片耳難聴についての情報収集やネットワークづくり

「困るを可視化『片耳難聴』マーク作成」

【助成額】 9万円

実施目的

■解決する問題:「見えない障害」の可視化。「分かりにくい」左右の難聴を伝える。

■背景・きっかけとなった声

〈当事者〉

「家族にさえ大変さや、左右どちらかが聞こえないかを忘れられる。」

「伝えても忘れられるから伝えるのを諦め、会話に諦めるようになった。」

〈周りの人の声〉

「難聴側を覚えるまでに時間がかかり、何度も聞くのも申し訳ない。」「そんなに困っていると思わなかった。」

〈片耳難聴専用のマークを作る意味〉

既存「耳マーク（手話や筆談をしてください）」ではなく「聞こえる側から話してほしい」ということが伝わる片耳難聴のアイデンティティともなるマークを作る必要がある。

実施内容

■マーク作成依頼者:

①当事者でありプロのデザイナーへの依頼 ②一般公募 ③当団体の当企画担当のボランティアスタッフ

■主なスケジュール

7月:当事者やその周辺の人からのアンケートリサーチ結果(150名)より企画方針の決定

8月:上記①のデザイナーによるマーク制作 10月～11月:公募の募集 12月上旬:公募選考

12月下旬:公募採用結果発表 2月:マークのダウンロード素材無償提供 3月:ステッカー購入者への初回送付

■その他の関連企画:

片耳難聴をどのように周りの人に開示するかや、マークのみで理解を求めるのは難しい。課題にアプローチするための企画を連動して行った。

①シチュエーションに応じた「啓発リーフレット」の作成(学校向け、職場向け)

②「伝える?」をテーマにした当事者同士の交流会 ③「セルフアドボカシー」に関する専門家による記事の制作

得られた効果

<公募による周知啓発の成果>

「公募」方式により、広く多くの人に知って頂く機会をつくることができた。その結果に、これまで軽視されがちであった片耳難聴の当事者からは「関心を寄せて貰えるのだ」と喜びと勇気づけられたという声があった。

- ・民間の公募募集サイト4つに本企画の掲載をし、それらを経由した当会WEBサイトへのアクセスが一万件以上あった。
- ・公募のエントリーは、約560件であった。その大多数が片耳難聴の当事者ではなく、両耳が聞こえる人を中心に、またその他の病気や障害などを持つ人、家族や周囲に片耳難聴のいる人であった。

<マーク制作による当事者への効果>

さり気ないデザインやポジティブな印象が、好評であった。この企画をきっかけに、「開示をしたことがなかったが、してみようと思う」という声もあった。一方で、「周りの人には、分かりにくい」と明確なデザインを意図しなかったことへのニーズも再確認された。

- ・ステッカーは、約100名からの300個の注文があった(販売開始1 か月後の2021 年3 月時点)
- ・素材ダウンロード無償提供は、約600PV。キーホルダーやハンコ・シールなど自身の使いたい用途に合わせて自作をするユーザーもいた。

今後の課題

<本企画に関して>

- ・ボランティアであるための体制や運用の不安定さを改善する。本マークをはじめとして、制作物が持続してユーザーが使用できるように組織自体の継続と、提供・販売運用マニュアル設備と人手の確保が必要である。
- ・「周りの人に伝える」を意図したより明確なマーク創出や、当事者の自己開示が課題となる背景や課題の分析/改善のための活動を引き続き総合的に検討する必要がある。

<団体運営に関して>

- ・2021 年度で創立3年目を迎え、会員数や参加者などが増加し規模が大きくなっている。より一層の健全で持続可能な組織運営が求められる。資金調達や運営メンバーの確保、コンプライアンスに則ったコミュニティ管理が必要である。



特定非営利活動法人ひょうごセルフヘルプ支援センター

<https://hyogo-self-help.jp/>

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 精神、発達、知的、身体障がい者

【日常の活動】

電話による情報提供

SHGのリーダーの運営相談

SHGのリーダー研修会

「セルフヘルプグループのディレクトリー整備事業」

【助成額】 11万円

実施目的

ホームページによって情報提供することで、より多くの人々の支援に繋げる

- セルフヘルプグループをホームページによって広報すれば県民全般のみならず、より広く情報提供でき、共通の生活困難を抱える人同士が繋がり合う一助となり、地域社会での孤立を防ぐ。
- 多様なセルフヘルプグループが存在することを知る機会となり、グループのない生活困難を抱える人は新たに自ら作って仲間同士の支え合いや情報交換の場とする。
- 今回の調査で 293 団体の存在が明らかとなり最新の情報を提供できた。

実施内容

兵庫県内に存在するセルフヘルプグループを調査し、以下の点について確認した上で、ホームページに掲載して広報した。

- グループがテーマとする課題を以下の 13 種類に分類して、それぞれの確認作業を実施。
 1. 介護者家族
 2. 身体に障害のある人たち
 3. 心に課題、精神障害を抱える人たち
 4. 不登校や中退、出社拒否の状況にある人たち
 5. 子育て中の人たち
 6. アルコール依存、薬物、摂食障害、依存や嗜癖のある人たち、
 7. 一人暮らし高齢者
 8. 発達・知的障害の人たち
 9. 子どもや伴侶等を亡くした人、離婚した人たち
 10. 性の問題で悩む人たち
 11. 難病で悩む人たち
 12. 脳卒中、手術や事故で後遺症を持った人たち
 13. その他
- 代表者・活動内容・連絡先などについての最新の情報を得た。
- 新しく発足したグループについての情報を既存のグループのリーダーや関係のセルフヘルプグループについて確認作業をお願いした。
- 当センターのホームページを新たにして最新のセルフヘルプグループの情報を掲載して広く広報した。

得られた 効果

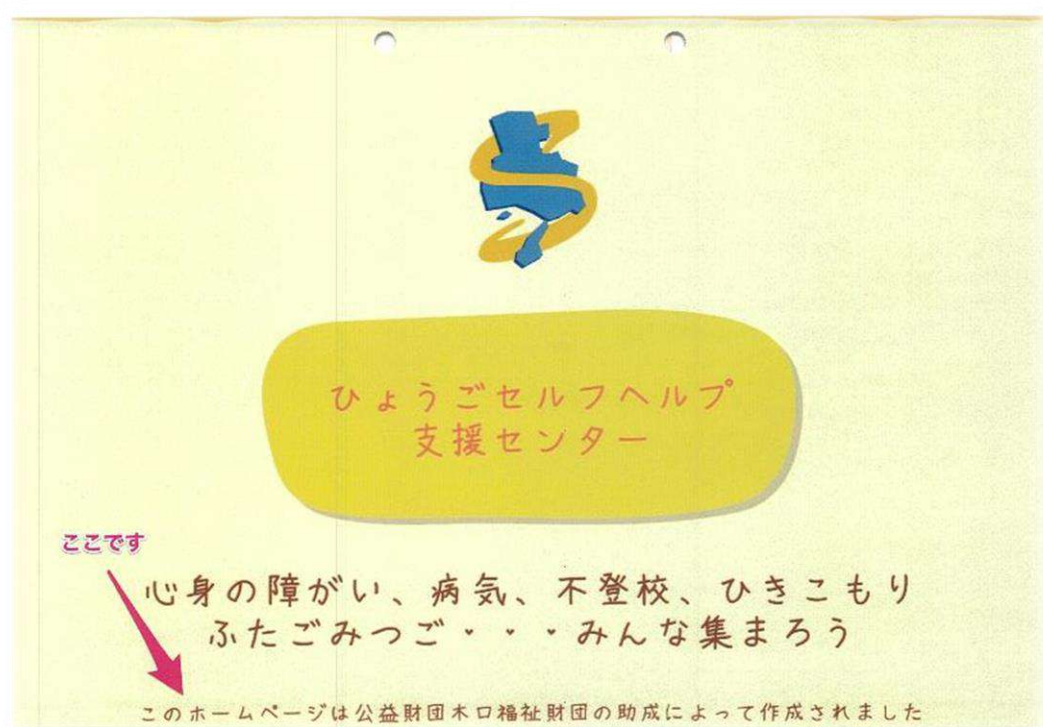
- 今回の調査で 293 団体の存在が明らかとなり、最新の情報をホームページによって提供できた。
- セルフヘルプグループをホームページによって広報すれば県民全般のみならず、より広く情報提供でき、共通の生活困難を抱える人同士が繋がり合う一助となり、地域社会での孤立を防ぐことになる。
- 多様なセルフヘルプグループが存在することを知る機会となり、グループのない生活困難を抱える人は新たに自ら作って仲間同士の支え合いや情報交換の場とすることが促進する。
- 薬物やネットなどの依存症のセルフヘルプグループが増加したことが顕著であった。
- 各市町の社会福祉協議会に事務局を置くセルフヘルプグループが前回 2015 年に比して大幅に増加したことが明らかになった。
- 市町の社会福祉協議会の中には地域のセルフヘルプグループのリストを作成しているところも見られたことから、セルフヘルプグループが地域福祉を推進する一助となることが認められたと考えられる。

今後の 課題

今回の調査で当センターの立ち位置として、セルフヘルプグループは自己実現や自己再生を志向する援助形態として自己変革の場と捉えていることが明らかとなった。その段階は次第に達成されてきており、今後はさらに社会に向き合い、社会変革の場となることが求められていると思われる。

障害や病気、不登校や性的な課題を保有する人たちへの内なる偏見や制度の不備に対して市民の意識が理解へと醸成されるような活動、制度の狭間にあるセルフヘルプグループのメンバーが保有するニーズを充足する公的なサービスへと改善するような活動が求められていることが分かった。

セルフヘルプグループの事務局を担う各市町の社会福祉協議会が増加していることや地域のセルフヘルプグループのリスト表を作成していることから、今後は当センターの役割のいくらかは社会福祉協議会が担うことになると思われる。このことはセルフヘルプグループが地域福祉の推進に貢献することを示している。当センターのような民間のボランティア団体の果たしてきた役割が公的にも必要性を認められてきたと考えられ、今後は公的機関との協働を推進していくことが重要である。



人権書道きらきら

【所在地】 兵庫県三木市

【対象者】 知的障がい者、その家族

【日常の活動】

- 障がい児・者の余暇活動・自己表現としての書活動の場、交流の場として「きらきら書道」を開催（月1回）
- 障がい児・者の自己肯定力を高め、地域住民に理解を得るため「書道きらきら展」を開催（市役所ホール・中央図書館他にて）（各会場 年1回）
- 自己表現や交流を目的として依頼を受けて活動（出前書道）（不定期 約月1～3回程度）

「障がい者（児）の書道作品集出版」

【助成額】 27 万円

実施目的

活動から20周年を迎えたことを機に、書を通して楽しみ繋がる場として開催してきた「きらきら書道」を地域社会の人達に知ってもらい、理解してもらうために、作品集の出版を企画。障がいのある人の書作品に関心を持ってもらうと同時に、障がいのある人自身が一人の人間として認められ、自然に繋がりがあえる明るく温かく優しい地域社会を目指す。

実施内容

- 障がい者（児）の書道作品集の出版
- 出版記念イベントの開催
 - 2020.4.10～2020.12.18 出版に向けた会議を開催 計17回 於 三木市立市民活動センター
 - 2020.12.18 「きらきら書道20周年記念誌」を出版
 - 2020.12.21～2021.1.15 出版記念イベント関係会議を開催 計 3 回 於 三木市立市民活動センター
 - 2021.1.24 出版記念イベント「社会を変えるつながりアート」開催

会場 三木市立市民活動センター 大会議室

内容 ミニコンサートとダイナミック書道体験

きらきら書道20周年記念展

（コロナ感染予防対策をし、最小人数の参加者、時間短縮で開催）

- 2021.2.6 障がい者本人と出版関係委員による話し合いの会を開催（反省と今後の活動についての意見交換）
- 2021.2.以降 ユーチューブ配信



得られた 効果

- 作品集の出版・発送により 20 年間支えて頂いた方々と繋がりを深めることができ、また新しい繋がりも広がった。
- 作品集出版に向けて話し合いを繰り返し重ね、書作品の掲載だけでなく作者の人となり(人柄・個性)の感じられる内容にすることに決定。出版後は「作品と書いた人がわかってよかった。」「この作品はどんなふうを書くの?」「(障がい者は)平日はどんなことをしているの?」「親亡き後はどうするの?」などの感想が多く寄せられ、会話が深まり、地域の人たちの温かい思いを感じることができた。
- 作品集ができたことで障がい者(児)本人が自信を持ち、意欲的に行動する姿も見られた。
- これまでは「きらきら書道」の場と年一度の展覧会開催を目的としていたグループだが、今回の事業を進めるうちに、障がい者自身の社会参加・地域社会の意識の変化を期待する長期的な目標を持つようになった。

今後の 課題

コロナ禍のため予定していた事業展開を大幅に変更、8月の20周年記念書道展は中止、出版記念式典は時期・内容を変更し 2021 年1月の開催となった。予定より遅れて出版となった記念誌は、計画時には障がいを持つ本人たちが手渡しをしているいろいろな人と繋がるきっかけとする予定だったが、コロナ感染拡大によりすべて郵送することとした。記念誌出版の目的と同じく目的としていた繋がりづくりに課題が残る。出来上がった記念誌を活かした繋がりを工夫していきたい。



特定非営利活動法人みやこ自立サポートセンター

<http://miyakojsc.webcrow.jp/>

【所在地】 岩手県宮古市

【対象者】 発達障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

○青少年自立支援事業（宮古市との協働事業）

主に発達障害や精神障害を抱えた引きこもりの人たちへの支援事業。長期間、社会との接点が途絶えていた引きこもりの人達及びその家族への相談、各種体験活動を実施している。

「土石流被災施設復旧事業」

【助成額】 50万円

実施目的

- ① 出来るだけ早く、従来の活動を継続できるような物理的な体制を回復する。
- ② 利用者のマンパワーを借りながら、できるだけ早く自分たちの手で復旧作業を進め、自己肯定感構築のきっかけの場とする。
- ③ 工夫しながら作業を進めていく中で、利用者各自が自分なりの生き方を工夫することの必要性和可能性を学び、体験していくことを期待する。

実施内容

◎実施場所・・・当団体利用施設（岩手県宮古市八木沢4-1-25）

◎実施事業・・・土石流被災施設復旧事業

◎物品・資材購入・・・トイレ便器、エアコン、パソコン、建築資材、配管用資材

◎具体的な作業

- ・玄関の解体作業 ・床下の土台の付け替え ・床の張替工事 ・外壁の修復 ・屋根の修復
- ・柱の交換及び修復・補強 ・簡易水洗トイレ便器取り付け ・水道配管工事 ・エアコン取り付け

以上の作業を「免許・資格を要する工事」は専門家の力を借りながらも、それ以外の作業は当団体スタッフと利用者の手で実施した。

得られた効果

今回の事業によって、「損壊部分の解体・修復」「トイレの改修」、「水道の復活」、「エアコンの設置」等ができました。今回の事業は事態の改善に向けてとてもタイムリーなものとなりました。これまでの事業を継続していくために施設の復旧は緊急且つ大きな課題でありましたが、財政的な負担をできるだけ抑えるために、可能な限り自分たちの手で修復作業を成し遂げようとスタッフ及び利用者で考えて来ましたが、可能な限り業者に頼らず、資材や部品だけを調達して、自分たちの手で修復工事を成し遂げることで費用を抑え、且つ利用者にとっても貴重な体験活動の場にして行こうと考え実施してまいりました。利用者の多くは「就労して生計を立てる」ということが、いかにハードルの高いことであるかを十分に自覚しています。

それ故に「自分なりの生き方」を探して苦労しているのが現状です。そんな彼らが一歩を踏み出すためのきっかけにする。これが今回の復旧事業の大きな狙いでした。被害が甚大であるため、復旧費用捻出のため様々な方策を探って来ましたが、住宅が被災した場合とは異なり、事業所への被災支援はほとんどなく、今回の事業は大変貴重なものとなりました。

この事業を通して参加した利用者は自分たちでもできるという実感を得ることが出来、自己肯定感を高めたと思います。利用者とともに大変感謝しております。

今後の課題

現在最も懸念されているのが当事者の高齢化とその両親のさらなる高齢化（8050問題）です。今後この現象が社会問題としてクローズアップされてくるものと予想されます。

今後の課題の一つに「コロナ禍での繋がり・関係性の構築」という問題があります。私たちスタッフ一同は、コロナ禍でも繋がれる関係性のあり方を模索しながら、さらに今後も支援対象者に寄り添う努力をして行くことを決意しています。

今回の事業を通じた助成金による支援、そして多くのボランティアの皆様からの支援に応える意味でも、なお一層活動の充実を図って行きます。

施設復旧と利用者並びに家族の支援継続は社会的要請も高く、今後さらに対象者は増大していくものと思われます。

当団体のかねてからの懸念材料であり、課題でもある「スタッフの高齢化」を補うために、幅広い賛同者の中からスタッフへの雇用を進め、スタッフの世代交代も見据えて、これらの問題を克服しながら、自立に困難を抱える若者の支援を継続していきたいと思います。



一般社団法人こねくと

lafraise-ichigo.mystrikingly.com

【所在地】 宮城県名取市

【対象者】 精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

就労継続支援B型事業所wara(定員20名)

就労継続支援A型事業所ラ・フリーズ(定員10名)

就労継続支援B型事業所ラ・フリーズ(定員10名)

相談支援事業所ぱふ(障がい児・障がい者(指定特定))

「いちご観光農園におけるいちご栽培の向上」

【助成額】 90 万円

実施目的

いちご栽培において、電照を設置することで苗の健全な育成を促進し、いちごの収量を増やすこと、また栽培期間を通して継続したいちごの育成を促し、いちご狩りに来られるお客様に提供するいちごを整え、売上の向上と利用者の賃金アップに繋がる環境を整えるため。

実施内容

本事業では、いちご栽培圃場内に電照を設置するための工事を、農場圃場内に設置されている 71 本の高設の真上に電照が取り付けられるように実施。いちごの苗 16,930 本(とちおとめ、にこにこベリー)に対し、日の入り後から 20 時 30 分まで電照することで、苗の健全な育成を図り、いちごの果実が良く実るような苗作りを行っている。

今年で 3 期目となるいちごの栽培である中、電照を 1 日 4 時間行うことで、草勢、草高がこれまで以上に整い、葉面積が増えることで光合成が促進され、大きくて味の濃いいちごが育成されています。

得られた効果

この度、いちご栽培について 3 期を迎える中、これまでで一番苗の状態が良く、葉の面積が十分に整っていることで光合成が促進され、第 1 果房の果実が実った後の、第 2 果房が間を開けることなく育成されている。また、果実も大きく味がしっかりとついており、すでに開始されたいちご狩りのお客様や直売の品でも良い評価を得ている。引き続き、日の入り後の電照を照射し、苗の状態を維持していくことで、いちごの収量を増やし、味付きの良いいちごをお客様に提供していくところである。



今後の 課題

純利益に繋がる夏場の取り組みについて整えていくことで、さらなる賃金向上に取り組んでいきたい。例えば、夏場に収入に繋がる作物を育てたり、また現在いちごの苗については外部に委託して育苗しているが、自ら苗の育苗を行うことで苗コストを下げ、かつスケジュールを組んだ定値まで連動した取り組みにより、理想的な苗の定値と栽培開始時期を整えることで、より健全ないちご栽培に繋がることも想定されるところである。



特定非営利活動法人福祉ファーム里山

【所在地】 埼玉県蓮田市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

就労継続支援A型および就労継続支援B型の多機能型で展開しております。

また、通勤不能な地域からの入所者に対応するため、関係会社（株）ルーラルライフとしてグループホームを運営しております。この施設の入所者は全員が、福祉ファームの入所者になっております。作業内容は、（有）篠山堂の施設外労働による野外農作業や、豆の選別や出荷包装作業等の受託作業を行っており、すべて農業関連作業です。

農業者として、農産物の生産業務（約50,000㎡）を行っております。

野菜部門は、大型機械の導入による大規模栽培を目指し、入所者にもスタッフが付き添いながら、機械操作も指導しております。今のところ女性中心に行っております。観光部門は2年後にスタート予定で準備中です。施設栽培はいちごの高設栽培を中心に実施しております。

「野菜保冷库の設置」

【助成額】 100万円

実施目的

農福連携施設として、日持ちのしない野菜作りが中心であるため、近年の温暖化による気温上昇もあり、既存事業の発展や新規参入のためには、野菜の保冷库を設置することが必須になってきております。ただ、野菜保冷库はかさばる野菜を収納するため、大型になることで、場所や費用が課題となっております。今般貴財団の支援により、保冷库設置に向けて作業を進めさせて頂きました。ただ、予想外の事態も発生し、計画より遅れたことと、若干の計画修正を余儀なくされましたが、3月29日に竣工検査が終了し、完成することが出来ました。

実施内容

場所 蓮田市笹山580-6 地目 畑 面積175.37㎡ 所有者 有限会社篠山堂

当該地に当初計画では、土台のコンクリートを敷いて、その上に、コンテナ式の保冷库を設置する計画で、農業委員会と交渉し了承を得ておりました。また、移動式のコンテナ保冷库のため、建築確認は不要との認識でしたが、建築指導課から、近年は、コンテナ設置も建築確認申請が必要との見解が示され、建築確認申請を行いました。その結果、別紙工事内容変更申請書記載の通り若干の計画変更を余儀なくされました。また、当該地の古いブロック塀も高さを低くして安全性を担保する等細かな指導が入り、確認申請が下りたのが、2021年1月になりました。そこから、年度内完成のための各種工事日程を組み上げ、購入コンテナの移動設置組み立てや東京電力の電気工事等一部工事業者も変更して急がせた結果、2020年度末の3月に完成することが出来ました。

その間に、時間がかかり、あちこちに交渉したことが、JA 南彩の担当者に伝わり、閉店した JA 直売場の保冷库を廃棄する予定なので、稼働保証は出来ないが、移動費用を持てば無償で譲渡する旨の提案を受け譲り受けることになりました。ただ、移動した後に、業者よりフロンガス使用の古いタイプのため使用困難と指摘され、別途冷凍機を購入し設置して、稼働を確保いたしました。その結果、2台の保冷库が並び倉庫が完成した次第です。

得られた 効果

まだ完成したばかりで、具体的効果はこれからですが、申請時に期待していた山芋やこんにゃく芋の種芋保存は、安心して出来ることになりました。また、懸案の学校給食用野菜の納入も、一部ですがこの4月から開始が決定して、4月9日第一回納品が完了しました。これも保冷库なくしては受注できません。今後は完成した保冷库を活用して、収穫時間等も出荷直前にこだわらずに、日中活動の中で、収穫調整して、保冷库に保存して、適宜出荷することが可能になり、障害者の施設として、無理なく作業を進められ、かつ販売機会が広がることが期待できます。また栽培作物も、保冷库があれば作付種類や栽培面積を拡大することが可能になります。当初予定より費用がかさみましたが、出来た施設を最大限活用して、施設の発展を図って参りたいと存じます。

今後の 課題

農福連携施設として、地域で認知されつつあり、また農業者の高齢化と共に、農地の拡大が進んでおります。当施設のA型作業所は自立支援が目的で、最終的には、農業での一般就労を目指しております。ちなみに、(有)篠山堂は農業法人の関係会社です。農業での自立には、面積の拡大が欠かせません。一方では面積の拡大には機械化が必要です。設備投資負担と生産性の向上をいかにバランスさせるかが課題の1つです。今1つは、農業仕事は天候に左右される部分が多く、雨の日や強風時の屋内作業を充実させる必要があります。今でも加工品の製造販売は行っておりますが、この方面の強化も課題となります。また、ハウス栽培も行っておりますが、暑い時期は難しいことと、ハウス栽培は高度な技術が求められることも有り、長期的課題と認識しております。



社会福祉法人年輪

<https://nenrin-sw.org>

【所在地】 東京都青梅市

【対象者】 知的障がい者

【日常の活動】

■就労継続支援B型事業

■生活介護事業

「作業室床張替え」

【助成額】 46万円

実施目的

利用者の方々の衛生面を保つことが主な目的

利用者様のご利用人数も増えていくことで、作業室が食堂も兼ねた部屋になり、衛生面を保つことが難しくなった為、床の張替えが必要と考えておりました。

実施内容

社会福祉法人年輪

いいあさファーム事業所のすばる棟作業室兼食堂の床張替え工事一式

ご利用者様が日々利用するスペースの為、滑りにくい床材、汚れがついても除去しやすい床材を担当業者の方と相談し決定、張替を実施致しました。

得られた効果

張替え後の作業日には、ご利用者様も新しい床材になったことがすぐ分かり、職員も含め掃除など日々清潔に保とうという意識が芽生えております。

ご利用者様の帰宅後の職員清掃作業でも汚れが落ちやすい為、床掃除がとても楽になりました。

現状のコロナウイルスの影響もあり、衛生面を保つことが、利用者を守る一番の方法と考えております。

今後の課題

障害者が活躍できる社会を創造することを法人理念として、農業と福祉を連携していくことを目的に事業に取り組んでおります。農業の担い手となるべく人材としてではなく、地域の中で一緒に農業に取り組むという姿を目指して日々利用者さんが畑に、水耕栽培に励んでいております。今後はさらに、農業を通して地域との関わりを深めていくことを課題として、様々な取り組みに励んでいきます。耕作放棄地を利用した市民農園の運営や、生鮮食品の扱いなども含め発信していければと考えております。



特定非営利活動法人ドリーム

<http://npo-dream.org/>

【所在地】 愛知県名古屋市

【対象者】 身体障がい者

【日常の活動】

【作業型地域活動支援事業】

小規模作業所で脳卒中障がい者への就労支援を実施。目標年間延べ支援者数は約6,000名

■喫茶事業：当事者が店員を務める喫茶店を営業（支援者数：年間延べ2,200名以上達成）

■情報誌事業：脳卒中障がい者向けの冊子を当事者が作成（支援者数：年間延べ1,000名以上達成）

■フェアトレード・地産地消事業：商品の仕入れ、販売を当事者が実施（年間売上目標60万円達成）

■教室運営事業：当事者が講師となり当事者、家族、地域の人への各種教室を実施。パソコン教室、パソコンスキルアップ教室、ミシン教室、ビーズ教室、絵手紙教室（支援者数：年間延べ1,600名以上達成）

■講師派遣事業：脳卒中の啓発を目的に、行政機関、教育機関、地域のイベントなどへ当事者と職員を講師として派遣（年27回実施）

■出張販売事業：病院、教育機関、地域のイベントで作業所が取り扱う飲食物、商品を当事者が販売（年11回）

■相談事業：当事者家族による家族会の運営、家族会による無料相談会の実施（年4回）、家族同士の交流会実施（年2回）、問い合わせ相談件数年間84件

■インターン・学生受入れ：看護師、リハビリ職などを目指す学校からのインターン受入れ（年20回実施）

「脳卒中障がい者が働く小規模作業所の改修工事」

【助成額】 46万円

実施目的

老朽化による転倒事故の危険性がある場所をなくし、利用者が安全に過ごせる環境づくりのために小規模作業所の改修工事を実施。当団体が運営する小規模作業所は、脳卒中障がい者を対象としており、利用者のほとんどに片麻痺の運動障害がある。足を引きずって歩くため、老朽化した作業所では障害物に躓く危険性が非常に高かった。転倒した場合、片麻痺の為に受け身を取ることができず、最悪の場合、歩行困難や寝たきりになる可能性がある。大きな事故になってしまう前に、改修工事が必要であった。

実施内容

脳卒中障害者が働く小規模作業所の改修工事を実施。

①スロープの改修

作業所出入口のスロープが壊れており、太めの金具パーツが床から浮き上がっている状態であった。

作業所へ出入りするには、このスロープを必ず通らなくてはならず、脚を引っ掛けてしまうことで転倒事故に繋がる危険性があったため改修工事を実施。安全なスロープになった。

②外壁の張り替え

作業所の外壁に貼り付けてあるパーツが次々に剥がれ落ちてきている状態であった。

壁を支えにして歩いた時にパーツが剥がれたり、落ちたパーツに滑ったりすることで転倒事故に繋がる危険性があったため改修工事を実施。元々あったパーツのような装飾のない、綺麗な外壁となった。

得られた効果

改修工事前の作業所は、いつ転倒事故が起きてもおかしくないような非常に危険な状態であったが、工事を実施したことで、利用者が安心安全に過ごせる環境を整えることができた。

また、作業所内は脳卒中障害者が店員を務める喫茶店にもなっており、一般の人も来店される。以前は、一般の人も巻き込む事故に繋がる危険性があったが、その点も心配がいらなくなった。さらには、作業所の外観が綺麗になったことで、利用者は非常に喜んでおり、働く意欲の増進に繋がった。また、作業所前を通る一般の人が立ち止まる回数が増加し、喫茶店へ初めて来店される人も増加した。それにより、今後、地域社会へ脳卒中障害を知ってもらうきっかけも増加すると考えている。

今後の課題

作業所の外観（脳卒中障害者が店員を務める喫茶店の外観）が綺麗になったことで、作業所前を通る一般の人が立ち止まる回数が増加し、喫茶店へ初めて来店される人も増加した。今後、さらなるお客様の増加により、利用者の活動費増加を目指したいと考えている。しかし、感染症拡大による緊急事態宣言等の影響により、以前に比べて人通りが大幅に減少しており、それに伴い、売上も減少しているのが問題である。当作業所は、喫茶事業が最も収益のある事業のため、かなりの痛手である。当作業所は、あえて内職的な仕事はせず、当事者が主体となり、社会貢献へ繋がる活動のみを行うというモットーがある。今後も社会の状況が変わらない場合は、収入の見込める新たな事業の考案も必要であると考えている。

今回の助成事業で、老朽化が進み、危険な状態であった床、スロープ、外壁の改修を行うことができたが、その他にも、長期使用して調子が悪くなったエアコンやパソコンなども、ゆくゆくは新規購入を行わなくてはならない。自己資金のみでは、購入ができないため、助成金など資金調達が必要である。



一般社団法人カレッジ

<http://www.officecollege.net>

【所在地】 兵庫県明石市

【対象者】 精神障がい者、知的障がい者、身体障がい者

【日常の活動】

就労継続支援B型事業、就労移行支援事業を行っています。主な作業、訓練の内容は、パソコンによる入力作業、イラストレーターによる画像制作作業、インターネットオークション、マグネット・携帯ストラップ制作、ホームページの制作・管理業務、動画制作、MOS検定等であり、令和元年からは、eスポーツを訓練に取り入れ、ゲームを通じて利用者の方々が事故の能力の可能性を見出せるような支援も行っています。

「障がい者就労支援のための作業室整備事業」

【助成額】 100万円

実施目的

現在行っている就労支援の利用者の中で、その障がい種別により作業適正に大きな違いも出てきております。特に能力の高い方々に対する支援を行うために訓練スペースを分ける必要があり、整備する必要がありました。

実施内容

明石市のビルにて10～15名ほどの方々を目安に、更に質の高い訓練の提供を行います。ホームページの作成、プログラム、ドローン操縦などがメインであり、様々な資格取得のための訓練を行い、今後彼らの就労を容易に出来るよう支援していきます。



得られた効果

事業所には、様々な障がい種別の方々、能力の方々がおられます。そういった中で利用者間の過ごしにくさも多少あったことは事実であり、今回の整備を行ったことでそのような問題もかなり改善されました。そのため、指導を行うスタッフもスムーズに支援ができ、利用されている方々もかなり有意義に過ごせるようになりました。

今後の課題

現在、PC訓練以外にも販売サイトの運営、eスポーツ、ドローン操縦と多岐にわたって訓練を提供しておりますが、今後はこれらの事業を更に拡大させ、利用者の工賃アップ及び将来の就労にどのように役立たせていくかが課題であると感じます。

特定非営利活動法人言語障害者の社会参加を支援する会しゃべろーよ

【所在地】 兵庫県三田市

【対象者】 失語症者

【日常の活動】

- 失語症の医療や介護、福祉の増進を図る活動 ■職業能力の向上や開発を図る活動
- 失語症者や家族に対する交流・親睦・相談事業 ■失語症支援者の養成事業
- 障害者総合支援法に基づく就労継続支援B型事業所 ■失語症の医療や介護・福祉の増進を図る活動
- 職業能力の向上や開発を図る活動 ■失語症者や家族に対する交流・親睦・相談事業
- 失語症支援者の養成事業

「作業室拡張による作業・支援力アップ」

【助成額】 100 万円

実施目的

今回、トークゆうゆうの第二工房となるスペースの改装工事を行う。従来の施設を第一工房として、喫茶、パン製造販売販売、菓子工房として活用し、新たに設置する第二工房を創作、パソコンによる印刷作業、企業の下請け作業を中心とした作業室として設ける。

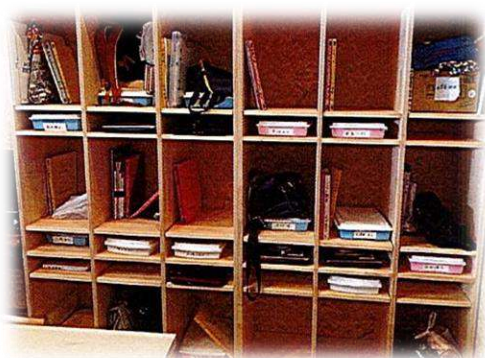
2つの目的をもった作業スペースが実現したことで、作業力、支援力アップを図りたい。

実施内容

実施場所:三田市三田町 36-7 三田ハイツ 1号室

実施内容:

- ①陳列棚、流し台等の撤去
- ②床、壁、天井工事をする
- ③商品陳列台やカウンターを作り、店舗スペースを設ける
- ④相談支援スペースや休憩スペースを設ける
- ⑤中央に作業机を置く
- ⑥利用者用木製個人ロッカーを備える
- ⑦和式トイレを洋式トイレに改修工事もオープンに合わせ実施した



得られた 効果

4月から工事にとりかかり5月末に完了したことで、残存能力の活用と就労支援をめざす作業スペースの確保ができた。

- ①コロナ禍に15名の利用者が2カ所に分かれて三密を避けられた。(誰も休む必要がなかった)
- ②個別にロッカーを設置、整理、整頓を促せた
- ③企業の下請作業の取組が認められ、一年を通して仕事の依頼を受けられるようになった
- ④第二工房を利用し、作業を好む人の意欲と自信につながる等積極性や自立性に変化も表われてきている。楽しみです。

今後の 課題

- 利用定員20名を達成し、1人でも多くの人に仲間との出会い、可能性を実体験してほしい
- 利用者を増やし、安定した財源で経営を図り工賃アップと賞与を支給してみたい
- 脳卒中や事故が原因で脳血管障害を負う人は増えている
- 医療保険の改正でリハビリ期間が短くなり30代40代の若い人たちが行く場がなく困っている
- 社会参加と働くが選択肢にある事を伝えていきたい。不可決です

一般社団法人みみずく耕房

<https://mimizuku-kobo.jimdofree.com>

【所在地】 兵庫県宍粟市

【対象者】 発達障がい者

【日常の活動】

就労継続支援B型

「作業室改修工事」

【助成額】 37万円

実施目的

事務所のある地域は水道網が設備されていない地域であるため浄水設備(除菌機)を設置し、水質基準をクリアし、施設内で加工品を行うための加工場を整備する。

実施内容

実施場所住所:兵庫県宍粟市山崎町千本屋 210-1

※施設 1階ダイニングキッチン、ポンプ設備周辺

1. 施設内のキッチン及びダイニングを加工場として整備する。

- ①地下水ポンプに浄水設備(除菌機)追加設備する。 2020/11/21 実施
- ②キッチンに手洗い専用の流水設備を追加設置する。 2020/1/16 実施
- ③壁を防水素材に変更及び壁造作し区画工事をする。 2020/1/16 実施

2. 食品加工場として保健所の許可を取得

- ①水質検査をクリアする。 2020/10/8, 2020/12/4 実施
- ②加工場としての要件をクリアする。(実地調査) 2021/1/22 実施
(2021/1/29 総菜製造、菓子製造の許可取得)



得られた 効果

- 施設内で加工場の許可を申請できたことにより、今まで遠隔地で作業していた業務が施設内でも実施できるようになった。
- 今まで簡易的な加工品（乾燥野菜、お茶等）だけを生産していたが、今後は、総菜や菓子等、本格的な製品できるようになり、利用者の工賃向上に繋がる。

今後の 課題

農業を主とした就労支援 B 型作業所ではあるが、農業以外の業務に適性が高かったり、それ以外の業務を希望される利用者もおられるので、利用者の特性に合った作業の創出が課題である。また、夏場の猛暑の期間や冬場の閑散期については、施設内でできる業務や農業以外での収入源確保が必須になってくるので、今回設置できた加工場を有効活用し利用者のサービス向上と工賃向上に繋げていきたい。

社会福祉法人倉敷夢工房

<http://kurashiki-yumekobo.com/>

【所在地】 岡山県倉敷市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

就労継続支援B型事業所

「ドッグランの新設」

【助成額】 42万円

実施目的

社会福祉法人倉敷夢工房は、パン・お弁当・クッキーの販売とレストラン経営を作業内容としています。作業の種類を増やすことで障がいを持つ利用者さんの個性と能力を活かすことができます。レストランの隣接地に開設することで2施設の相乗効果が見込まれ工賃アップにも繋がると考えています。利用者さんの平均工賃は倉敷市内で一番高い水準にありますが、利用者さんの待遇改善、地域貢献に向けて努力を続けていきたいと思っています。

実施内容

東西南方向にはフェンスがあるので、北側に門扉とフェンスを設置しました。

水飲み場、洗い場を設置しました。ドッグラン場内に椅子を設置しました。

ドッグランの会場が分かりやすいように看板を設置しました。

ドッグラン利用規則の看板を設置しました。



得られた効果

12月から開始いたしました。当初は新型コロナウイルスの市内感染拡大のため、レストランのお客さんも激減いたしました。広報不足と寒さのためドッグランの利用も限られていました。

2月に地元紙の山陽新聞さんが大きく記事として取り上げていただいた以降は、週末は少しずつお客さんが増えていきます。暖かい気候の良い日は、20人ほどの多くのお客さんが来られた日がありました。

食事や飲み物の提供もおこなっています。サービス内容も定期的に見直していきたいと思っています。障がいを持つ利用者さんのお客さん対応も少しずつですが慣れてきています。レストランは家族での利用も多いので、子どもたちが外に出てドッグランで遊んでいる犬を楽しんで見ていることもあり相乗効果が期待できます。

これから良い季節になれば、ドッグランの利用者さんが増えると思います。忙しくなり、利用者さんの工賃アップになるものと確信しています。

今後の課題

職員の確保と能力向上です。

新型コロナウイルスの影響で、レストランやパン、お弁当の売り上げが下がっていますが、利用者さんと職員が地域で生き生きと働くことができる魅力ある職場環境にしていかなければいけません。現在の仕事を発展拡大するとともに、新たな事業に挑戦する予定です。そのためには職員の確保と研修などを通じた能力向上が必要です。



特定非営利活動法人工房かたつむり

【所在地】 岡山県倉敷市

【対象者】 高次脳機能障がい者

【日常の活動】

日常作業：工芸（指編み）・陶芸・農作業・名刺・印刷他

生活訓練として

毎週：絵画・音楽療法（各指導者来所月2回、自主練習）・卓球

認知療法のグループリハビリ（大学授業と学生来所）

避難訓練：毎月1日に訓練

その他

月2回：習字・絵画・オカリナ&ピアノ（各指導者来所）

年1回：川崎医療福祉大学授業での発表・言語まつりへの参加・医院への慰問

随時：高次脳機能障がい者に係る相談

「家屋の外壁塗装」

【助成額】 84 万円

実施目的

築15年以上経過し外壁の防水性が低下。屋内にも雨水のシミやひび割れ等が散見されるようになり、外壁の塗装工事の必要性を痛感し、外壁塗装工事を行い雨水の侵入を防止したものです。

実施内容

工房かたつむりの建物の外壁の防水工事と塗装工事。

得られた効果

今年度は新型コロナの影響で皆が楽しみにしていた行事も軒並みなくなりましたが、毎日の活動は今まで通りできるよう頑張ってきました。そんな中で今回の助成による外壁全面塗装により新築の様に綺麗になり、毎朝の通所がすがすがしい気持ちになりました。また、防水工事により屋内への雨水の浸水も防げ新たなシミもできなくなり、快適な空間が維持できています。

また、可愛いシール（「もっとシールが大きくて良いのに」と家族の皆さんに言われます）も嬉しく、前向きな気持ちでこれからも頑張ろうと皆感謝しております。本当にありがとうございました。



今後の 課題

3月から新型コロナのため、川崎医療福祉大学から先生と生徒さんが来所して行うグループリハビリ（認知リハビリ）が見送りとなっていましたが、やっと10月よりリモートアクセスにより大学と工房かたつむりを結ぶオンライン授業の形で始めました。今後も色々な事象に対し、その時々状況に応じた対応により、活動を続けていけるよう努力していきたいと思っています。

今は練習している音楽の発表をする場もなくなり当事者も家族も寂しいですが、いつか発表できると信じ新しい曲にチャレンジしています。

後ろに下がらない「かたつむり達」は少しずつ、気持ちも新たに頑張っています。



特定非営利活動法人おしあげ

【所在地】 岡山県倉敷市

【対象者】 精神障がい者

【日常の活動】

■就労継続支援B型 ■精神保健福祉に関する連絡調整及び交流事業 ■障がい者に関する啓発広報事業

「調理室流し台取替工事」

【助成額】 45 万円

実施目的

現在 調理室の流し台が手狭で作業効率が悪く、作業時間のロスにもなっています。
2か所の洗い場を設けることにより、作業効率のアップをはかるため、ひいては利用者の工賃アップにつなげるためを目的とする。

実施内容

当作業所、調理室流し台等



得られた効果

今までは、約 10 人の人間が、作業中の手洗い・調理道具の洗いなどを順にこなすのに、列をなしての作業となり、ロスタイムがありました。今回 2 か所の洗い場が出来たことにより、皆、上手に作業段取りを考え、待ち時間を減らせるよう、お互いに気持ちよく作業に臨むことが出来るように考えているように感じます。
毎日、「これ凄いやな～、いいやな～」と言いながら使っています。つい口からこの言葉が漏れるようです。とても便利になりました。ありがとうございました。

今後の課題

B型事業所「ワンステップばちばち」の今年度の目標は、「地域に開かれた施設を目指す」ことであった。
しかし 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定していた小・中学生による福祉の職場見学・体験交流会を中止せざるを得ず、残念であった。
お陰様で、調理室改修工事も無事完了し、今後も地域に開かれた事業所として、見学者・体験希望者を受け入れ、地域住民の福祉に対する意識と理解の向上を図るとともに、「ワンステップばちばち」で働く人たちの工賃アップが課題である。

社会福祉法人めやす箱

<http://www.meyasubako.jp>

【所在地】 岡山県倉敷市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者、難病患者、生活困窮者

【日常の活動】

- 就労継続支援B型事業所 「いっぽいっぽ」他4事業所
- 就労移行支援、就労継続支援B型事業所、自立訓練 「就労センターかなで」
- 就労移行支援、就労継続支援A型事業所 「ワークスめやす箱」
- 生活介護「ブルー・キャンパス」他3事業所
- 児童発達支援センター「めやす箱」「さんぼるて」 ■放課後等デイサービス「めやすばこきっずぶらす」
- 地域生活支援事業「めやすばこ・ぶるーむきっず」 ■相談支援事業「めやすばこあのね」
- 倉敷市地域活動支援センターⅠ型事業「倉敷西部地域生活支援センター」
- 生活自立相談支援事業「倉敷市生活自立相談支援センター」
- 共同生活援助・短期入所「グループホームめやす箱Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

「浴室から相談室への改修」

【助成額】 73万円

実施目的

事業所内の相談スペースは職員室と同質のため、プライバシーが保ちにくい。
そのため、相談のスペースを確保し、保護者の方や職員も落ち着いて話ができる環境を作ること、保護者同士の横の繋がりを作ったり、保護者・地域の保育士・相談員などの関わりのある機関との連携を強化したりする。

実施内容

めやすばこひ・よりきっず内の浴室であった一室を、相談室に改修した。
浴槽を取り払い、フラットな一室となったことで、机やイスを置き相談スペースとして活用することができるようになった。

得られた効果

（事業の成果）

- 人の目を気にすることなく話や相談ができるスペースができたことで、保護者同士の茶話会や保護者向けの勉強会、関係機関の方との連携を行うことができる。

（将来に及ぼす効果）

- 相談室を使用し、保護者向けのペアレントトレーニングや勉強会を行うことで、ご家族が障害を理解、受容し、自分の手で育てていく心構えができる。保護者が子供のや障害について理解することで、成人までに必要な支援を受けることができ、成人期以降もお子さんが地域の中で自立した生活を送ることが期待できる。
- 相談室で地域の保育士や教師へ情報提供を行っていくことで、地域の方の障害に関する理解を深めることができ、こどもたちが生きていきやすい地域づくりにつながる
- 話しやすい環境の中で保護者同士の茶話会を開催することで、悩みを打ち明けたり、思いを理解してもらったりすることができ、前向きに子を育て、支えていくことができる。

今後の課題

相談室ができたことで、保護者同士の交流の機会や、保護者へのペアレントトレーニングを行う環境を作ることができた。これにより、生活の中で子どもと大きく関わる存在である保護者が、自分の子を理解し、育てていくために必要な力をつけていただくために必要な機会を設けることができると考えられる。

しかし、実際にお子さんが生活する場は家庭だけではない。通っている園をはじめとする地域のコミュニティ、また、就学を控えるお子さんにとっては、これから先関わっていく小学校も生活の大半を占める生活の場となる。現段階では園の先生がお子さんの療育の様子を見学にきてくださったり、職員が園の様子を見に行かせていただいたりする機会はあるが、1人のお子さんに対して、年1回ずつのやりとりで終わってしまうことも少なくはない。療育で伸ばせた力を、子どもにとって重要な生活の場で発揮できることこそが療育の最終ゴールである。関係機関とより密に連携を図りながら、より生活に沿った支援を提供出来るようにしていくことが今後の課題である。

今回助成いただき、コミュニケーションの場となる相談室が出来たことを生かし、地域の園の先生との情報交換会や、保育者、教師向けの勉強会等を積極的に開催し、子どもの生活がより楽しく、充実したものになるために、関係機関の連携に努めていきたい。



特例認定特定非営利活動法人とりで

<https://www.toride2016.com/>

【所在地】 山口県岩国市

【対象者】 知的障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

1. 児童自立生活援助事業【自立援助ホーム】・・・H28年～ 現在2カ所
2. 子育て支援短期利用事業・夜間養育事業・・・H29年～ 現在2市
3. 生活困窮世帯の子どもへの学習支援事業・・・H30年～ 現在2中学校区
4. 小規模住居型児童養育事業【ファミリーホーム】・・・H31年～
5. 放課後等デイサービス・・・H31年～
6. 地域への子育て支援【子ども食堂(食事支援)・学習支援】・・・H28年～ 現在3中学校区で実施
7. 児童入所施設の対処児童のアフターケアに関する事業・・・H28年～

「放デイにおける支援充実のための設備工事」

【助成額】 100万円

実施目的

放課後等デイサービスの支援拠点は2階建ての1戸建て物件だが、1階部分が未整備のため、2階部分だけで支援をしている現状がある。すでに利用定員10名に対し、10名を超えて利用がある日があり、よりゆとりがあり柔軟性のある支援をおこなうためにも物件自体を広く使う手立てが必要である。また、ガラスの養生、防災対策が不十分であるため、この点についても改善が求められるため本事業を申請した。

実施内容

1階のガラス面の養生、床のカーペットの張替え。(1階は真ん中に仕切りがあり、右部屋、左部屋、と別れている)、エアコン設置、踏み込み設置、照明変更。

得られた効果

- 1階のガラスは何も強化していなかったため子どもたちがたいて割る可能性があった。今回の養生によりこれを未然に防ぐことが出来た。
- 1階の床は防災マットを敷いておらず防災の観点から利用は控えるよう消防署から指導を受けていたが、防災マットに変え、色目の綺麗なマットを敷いたため、子どもたちが活動しやすいスペースとなった。
- これまで1階のプレイルームではエアコンの設置をしていなかったが、エアコン設置を行ったことで、子ども達が快適に活動できるようになった。
- 踏み込みの設置により子ども達が靴を脱ぎやすくなった。
- 照明を変更したことで明るい環境で活動できるようになった。従来の物は照明が暗く、蛍光灯がむき出しのタイプであったため、ボールなどが当たると落下する危険性があった。

- 継続して放課後等デイサービス以外の地域で行っている無料の学習支援、食事支援など（以下、活動）を続けるための資金の確保（現状、活動の財源は寄付金、助成金）
- 活動場所の増加に合わせてボランティアの人員の確保
- 当法人が活動する地域は、県営住宅や市営住宅が多く建ち並び、経済的に芳しくない家庭が多いと予想される地域である。そのような子どもたちに対し、状況に応じて必要な関係機関や支援先につなげていく、一歩踏み込んだ支援にどうつなげていくかが課題である。



特定非営利活動法人カトレア会

<https://www.dream-katorea.jp>

【所在地】 岩手県気仙沼郡

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者

【日常の活動】

就労継続支援 B 型事業所の運営。

「利用者送迎車両の購入」

【助成額】 100万円

実施目的

利用者送迎で使用しているワンボックスカーは走行距離 30 万キロを超えており、エンジンの調子も良好ではなく、燃費も8から7Lと落ちてきている。送迎中の車のトラブルを考え、送迎中の安全を期するため。

実施内容

釜石市、遠野市、住田町の3市町での送迎に使用。

得られた効果

助成金をいただくまで、通所者の多い日は、エブリイ2台で乗り切れず、一度活動場所に下車していただいて、また送迎に向かうという方法を取っていました。その分通所者の送迎時間も早めて頂いていました。ワンボックスカーを購入することができ、一方向に一台の送迎ですみ通所者の時間も余裕ができて喜んでいきます。

狭いエブリイに乗り合わせて窮屈な思いをさせていましたが、このコロナ禍余裕をもって座ることができるようになりました。

また、今年は雪が多く職員が一人残るため、雪かきをして皆さんを迎える事ができるようになりました。

今後の課題

今の活動は内職を中心に活動しています。コロナの影響で、内職作業が皆無の時期がありました。そこで、高齢者福祉事業と障がい者福祉事業がお互いに支え合う事ができ、生きがいを持てる事業にしたいと考えています。



社会福祉法人つどいの家

<https://www.tsudoinoie.or.jp/>

【所在地】 宮城県仙台市若林区

【対象者】 知的障がい者、重度重複障がい者

【日常の活動】

- ・生活介護事業所 5カ所
- ・生活介護、児童発達支援（多機能型） 3カ所
- ・ホームヘルプサービス事業所（居宅介護、重度訪問介護、光道園後、移動支援、同行援） 2カ所
- ・相談支援事業（委託相談、指定特定相談支援、指定障害児相談支援、指定一般相談支援） 2カ所
- ・グループホーム 5カ所
- ・仙台市障害者家族支援等推進事業 3カ所

「利用者送迎及び日中活動用福祉車両の購入」

【助成額】 100万円

実施目的

「つどいの家」では現在 8 台の公用車がありますが、2ヶ月から3ヶ月に1度の頻度で故障している現状です。日々安定した事業を行えるように、日々2 名体制で日常点検を行いながら朝、夕の送迎や活動で使用しています。しかし、日々の送迎や活動など公用車を使用する機会が多く、ドアの開け閉めや車椅子の方がそのまま乗れるリフト部分の使用等の摩滅により予期せぬ故障が発生します。現在は摩滅をその都度修理して使用していますが、年々公用車にかかる金額が膨大になっています。この現状を打破するため新しい公用車を購入し、「つどいの家・コペル」で行なっている事業をさらに促進させ、「現利用者の送迎ニーズの対応」「新たな利用者の受入」「地域との関わり」を実現するために本事業を実施します。

実施内容

一つ目の「現利用者の送迎ニーズへの対応」ですが、「つどいの家・コペル」では51 名（日常的に車椅子を使用している方が24 名。常時歩行介助が必要な方が8 名。一部介助が必要な方が9 名。自立して歩行できる方が10 名）在籍しております。その半数が開設当初から当事業所に通っております。その間に利用者本人だけでなく、家族も年齢を重ねています。また利用者の障害支援区分も年々上がっており、現在では平均障害支援区分が5.4 となっています。この数値は福祉医療機構が公表している利用者の平均障害支援区分5.03 より上回っている数値です。そしてご家族の高齢化に伴い自家用車での送迎が難しく、送迎サービスのニーズが年々高まっており、開所当時15 名であった送迎利用者は現在41 名の利用希望があり、日々6～7 コースに分けて送迎を行なっているため車椅子に対応したリフト付き福祉車輛整備が不可欠です。

二つ目の「新たな利用者の受入」に関しては、当事業所では毎年特別支援学校の高等部の実習生を受け入れていますが、2017 年以降の3 年間で計10 名が車椅子を利用されていました。当事業所は仙台市若林区の南側に位置しており、周辺の社会資源の状況からも、車椅子を利用されている方から利用の希望を多く受けます。その際に送迎についても同じく希望されることが多いです。このような希望にこたえるためには、リフト付き福祉車輛の増台が必要です。また、仙台市における在宅の重症心身児者の人数は2016 年度時点で476 名であり、2012年度と比較すると197 名増えています。2018～2023 年度を期限とする仙台市障害保健計画においては市内各区に重症心身障害児者が利用できる通所施設等の整備促進が示されています。支援学校卒業後の進路を考えると当事業所として新規受入のため体制を整備しなければいけません。

三つ目の「地域との関わり」に関してです。当事業所が開設し、19 年が経過しました。法人の基本理念に基づき、地域でいきいきと自己実現できる機会として利用者が描いたアート作品を地域の銀行で展示する機会や、地域のお祭りに一緒に参加したりする活動を多く取り入れ、地域との交流を図っています。障がいのある方々が地域で生活していることを伝える地域住民と利用者の架け橋になることが私達の使命として日々利用者の想いに寄り添いながら活動を行っております。障がいのある方々の生活を「知ってもらう」ことで、少しでも障がい者に対しての理解・啓発につながればと思っています。送迎への対応だけでなく、活動内での社会参加及び地域交流を実施します。

得られた効果

一点目の「現利用者の送迎ニーズへの対応」についてです。先日も主たる介護者である母親の体調不良(腰痛)に伴う送迎利用増のご相談をいただきましたが、その際も対応することが出来ました。また、医療的ケアを要し機器を含めた持ち物が多い方、身体に合わせたサイズの大きな車いすを使われている方の乗車にも対応できる車を増やすことが出来ました。今回助成をいただき購入した車両は車いす席と支援者の座席が非常に近い為、送迎時の痰吸引や発作時の様子確認などより丁寧な対応が可能になりました。新型コロナウイルス感染症対策として、通所時間中に37.5℃以上の発熱が見られた利用者は速やかに単独送迎で自宅まで送り届ける対応を取っています。その際にも本車両を使用しております。

二点目の「新たな利用者の受入」についてです。令和2 年度に関しては、支援学校の学生8 名がコペルで実習を行いました。実習をした保護者の多くから「送迎はできますか」と言う確認があり、事業所を選ぶ基準の一つとして「送迎が利用できるか否か」という項目が上位にあることが伺えます。仙台市では生活介護事業所利用にあたり入所調整会議(生活会議事業の新規利用希望を仙台市で集約し、利用者個々の希望先と事業所の空き状況を踏まえ、利用先を調整する会議)が開催されています。今後も調整がありますが、公用車が増えたことで、送迎を含めた新たな利用者の受入について可能性が広がりました。

三点目の「地域との関わり」についてです。新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでのような活動の組み立てが難しくなっております。新型コロナウイルス感染症対策とコミュニティワークを如何に両立させるかは大きな課題です。しかし、これまでのつながりもあり、幸いにも当事業所で製造するパンの販売を継続することが出来ています。区内の薬局や個人宅へのパンを配達する際に本車両を使用しており、利用者の方々も販売を通して人と接することで自分自身の役割を感じることが出来ます。また、新たに始めた食品ロスと生活困窮者支援の循環に加わる取り組み(事業所の玄関にフードボックスを設置し、寄贈いただいた食品を、利用者と職員とでフードバンク団体へ送る活動)に際しても、本車両を活用しております。

今後の課題

開所して20 年経過し、利用者の変化と社会の変化に伴い、職員にも専門性と幅広い対応力が求められています。職員のスキルアップが必要です。具体的には利用者自身の加齢による心身の変化への対応、二次的な要因により行動障害を有する方への対応、家族の介護力低下や逝去に伴う相談支援事業所や行政機関との連携、虐待防止に資する職員の倫理及びスキルの向上等が挙げられます。当事業所で利用者の特性などを考慮し各グループ編成を行ない、日々活動展開を行なっています。また、職員間のコミュニケーション促進、労働環境の改善にも力を入れております。日々の活動展開の根拠となる個別支援計画に基づいた支援実施するために今以上に専門性に特化した研修などに参加し、職員一人ひとりのスキルアップする必要があります。

グループホームの展開も急務です。建物などのハード面を整えると共に、人材と言うソフト面の充足も不可欠です。福祉に魅力を感じる人を増やし、「福祉の仕事で働きたい」「福祉の仕事に就いて良かった」と思える人材を少しずつ広げていく活動が必要だと感じています。また、建物の修繕も大きな課題となっております。昨年は給湯・空調設備の大規模改修工事を施行しました。施行に当たっては寄附の募集を行ない、地域の方々を含め500 万円のご寄附を賜ることができました。今後も壁紙、外壁、配管の修繕が必要となることから長期的な見通しを持ち、修繕計画を立てた上で費用を捻出していく必要があります。



特定非営利活動法人水梨かふえ

【所在地】 宮城県気仙沼市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者

【日常の活動】

【放課後等デイサービス】

学校に就学し、支援を必要とするお子さんに対して、授業の終了後又は休業日に生活能力の向上や社会との交流を促進するための支援を行っている。特に、自分で体を動かすことができないような障がいのある子に対しても支援をすることができている。

【日中一時支援事業】

支援を必要とする18歳以上の障がいのある方に対して、宿泊を伴わない一時的な介護、見守り等の支援を行っている。

【保護者等を支援する事業】

子育て応援サロンや「ママかふえ」などを実施し、障がいのある子どもたちの就労について考える機会を提供している。

「利用者送迎用の新しい車両購入」

【助成額】 100 万円

実施目的

利用者増に対応するため、新しい車両（軽自動車）を購入し、送迎の安全性を高める。

一昨年の12月に、障害のある子どもたちと保護者の皆様をなんとか支援することはできないだろうかという思いで開所した施設ですが、医療的ケアを必要とする子や自宅から外出することが著しく困難な子どもなどの支援も可能ということで、利用者から信頼される施設になってきています。利用者増につれて送迎用の車両が足りなくなってきました。スタッフには女性が多いので女性でも運転しやすい軽自動車を購入して、送迎の効率化を図り、送迎の安全性をさらに高めようと考えました。

実施内容

軽自動車ワゴンRの購入。

車種を決めた理由：比較的安い値段で、安全性に配慮された設計であること。実際に、ワゴンRに乗っているスタッフもいて、「乗りやすい」という評価だった。また、燃費の面で効率的なことも選択の理由になった。

購入先を決めた理由：「オートショップ加藤」から今年の2月に、車椅子をそのまま乗せることができる車両を寄贈していただきました。下取りの中古車両でしたが、車椅子に人が乗ったままで乗り降りができるような装置が付属していたので、「いっばで活用できるのではないか」という社長の考えで、寄贈していただきました。このことがあったので、木口財団様からの助成金をいただいた際には、「オートショップ加藤」から購入しようと思っていました。

木口財団様から助成金をいただけることになって、計画どおり、ワゴンRをオートショッパ加藤から購入させていただきました。安全性をより配慮したために見積金額よりはちょっと高い車両になってしまいました。

得られた効果

- 1, 利用者の送迎が効率的になり、安全性が高くなっただけでなく、子どもたちの肉体的負担と、運転するスタッフの負担も軽くなった。

現在、新型コロナウイルスの影響もあって、日々の利用者がとても多くなっています。定員は10人ですが、県の規則で決められた上限の15人に近い人数の利用者がある日が続いています。これまでは、4台の車で5人、4人、3人、3人と分けて送ったり、遠くへ早めに行って帰ってきたらもう1回近くの子を送ったりするなど、利用者は長い時間車に揺られ続けなければならないことやスタッフも多くの子どもを乗せたり、何度も行き来しなければならないなどの負担がありました。1台車が増えたことにより、子どもたちの乗車時間は大幅に少なくなりましたし、送迎のスタッフの負担も軽減されています。

- 2, 顔の見える支援により、職員一同のモチベーションが上がっています。

木口財団様には、昨年、仁王事務局長にお出でいただいたり、今年も水梨かふえいっぽの様子について事務局の方から電話で話を聞いていただきありがとうございます。このような経過を経ての助成でしたので、私たちの実践を理解していただいた上での助成をいただき大変ありがたく思います。木口財団の皆様からの期待を裏切ることがないように今後も職員が一丸となって施設運営にあたって参ります。

今後の課題

- 1, 事故のない送迎を心がける。
- 2, 私どもの活動が、地域の方々に認められて、廃校となった小学校の校舎をお借りして、施設を運営することができる方向で話が進んでいます。より広い活動場所を確保できるので、これまでできなかった分野の支援もできることになりそうです。18歳以上の障害のある人たちに、「生活介護」という福祉サービスも、2021年4月から実施できる見込みです。しかし、小学校の校舎だったので、障がいのある人たちが落ち着いて過ごすようにするためには、校舎やトイレの改築やソファや家具などの備品も多く購入しなくてはなりません。

また、さらに多くのスタッフも必要です。ということで、送迎用の車両についてはおかげさまで解決しましたが、旧校舎を使用することができるようになったための、費用面、スタッフの拡充が今後の課題となっています。



特定非営利活動法人ふよう土 2100

<https://www.npo-fuyodo2100.org/>

【所在地】 福島県郡山市

【対象者】 発達障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

■児童福祉法に基づく事業「放課後等デイサービスがっこ」で発達障害の小中学生の療育活動の実施。児童発達支援・放課後等デイサービスの多機能型事業所「えむーる」で対象となる中高生に就労準備型の療育プログラム、就学前のお子さんを対象に機能訓練特化型の児童発達支援を実施している。

■障害者総合支援法に基づく「相談支援事業所ひかり相談室」の運営。障がい児（者）総合相談としてサービス等利用計画の作成等を実施している。

障がい者家族の生活支援のため、交流サロンひかりの活動として、リンゴの木収穫体験や体験旅行、作品展示会をはじめとする発達障害児童・生徒の生活相談や創作活動等の支援事業を実施している。

「利用者送迎及び余暇活動支援用車両購入費」

【助成額】 100 万円

実施目的

震災・原発事故直後に幼少時期を迎えた子どもたちは、原発事故のため外遊びが制限され、本来、年齢に応じて体験すべき活動が出来ず、その影響は大きく、郡山市内の特別支援学校や特別支援学級に通う子どもの数は増えている。私たちは様々な社会的な体験活動の場を設けて、子どもたちの可能性を広げていく活動を続けています。今回、利用者送迎及び余暇活動支援用の車両を購入することによって、利用者送迎の範囲が広がり、余暇活動支援で野外活動する機会を増やすことが可能となり、いままで以上に通所支援事業所の利用を必要としていた受益者の受け入れが可能になる。発達障害の子どもたちの秘めた可能性を引き延ばし、できることを積み重ね、子どもたちの成人後の自立度を高めていくために本事業を実施する。

実施内容

8 月 25 日 ダイハツ福島株式会社にトール 1 台発注

10 月 22 日 ダイハツ福島株式会社からトール納車

10 月 22 日～10 月 31 日

放課後等デイサービス、えむーるの送迎車両として、小中高校・支援学校から事業所、事業所から自宅までの利用者送迎を実施。22 日から 30 日までの約 1 週間で延べ 50 人の利用児の送迎に活用している。また、相談支援事業所ひかり相談室の相談支援専門員が障がい児家族や関係機関を訪問する際の訪問車両としても活用している。

10 月 27 日 ブログ掲載

得られた効果

コロナ禍の中、送迎車両が 1 台増えたおかげで、これまでより余裕をもって放課後等デイサービスがっこ・えむーるの配車が可能となり、密になりやすい満車状況を回避できるようになった。結果、感染予防対策も進めることができた。

今回の事業実施によって、年間利用者見込み延べ 5,000 人に対して、年間延べ 1,500～2,000 人の送迎利用を見込んでおり、新たな受益者の受け入れも可能となった。余暇活動支援についても、ふよう土の畑の体験活動をはじめ年間延べ 300 人の利用を見込んでいる。

今後の課題

通所支援事業所を利用しているお子さんの中には、不規則な生活リズムで食事や入浴も適切に与えられないケースやひとり親世帯や生活保護といった生活困窮を抱える子どもたちの姿が散見される。子どもたちの未来を守るために、セーフティネットをどう確保するか。自立のための一歩を踏み出せるためにどのような療育プログラムを提供していくか。その資質向上が問われている。あわせて、送迎車両の増車に伴い、受け入れが可能となった新たな利用児に対して10年後の将来を見据えて、ひとりひとりの個性や能力に応じて、個別療育プログラムをどのように作成し実施していくか。社内研修や社外研修を通じて、職員のスキル向上を図っていく。



社会福祉法人宝安寺社会事業部

<http://houan1900.jp>

【所在地】 神奈川県小田原市

【対象者】 知的障がい者

【日常の活動】

保育園事業、病後児保育室、児童発達支援、保育所等訪問支援、相談支援、就労移行支援、定着支援、就労継続支援B型、共同生活援助、生活介護、短期入所、放課後等デイサービス事業、日中一時支援事業

「利用者工賃向上に伴う設備投資」

【助成額】 51万円

実施目的

就労継続支援B型を利用している利用者が毎日、今日も来て良かったと思えるために、魅力ある日課、作業を提供しておりますが、毎月、利用者に支払う平均工賃が2万円になるように収入の向上を目指します。

そのために新たな販路拡大と食パンの生産量の拡大に取り組むこと。

実施内容

ほうあん第一しおん就労継続支援B型のパン工房は現在、手作業で食パンのガス抜きと成形作業を行っています。この作業を同時に行える機械（ミニモルダー）を購入し設置いたしました。

得られた効果

導入前は食パン2k（13斤）の作製が限界でしたが、機械を導入したことで作業スピードが上がったため、現時点で食パン4k（28斤）を作製しても2k作製するよりも時間が短くなった。今後注文が増えればさらに多くの生地を捏ねることができる。

また、施設職員に毎週水曜日に食パン定期便を発案し、現在10名が購入してくれることになった。以前までは購入したいと思っても作成個数が限られていたので、購入できないと思っていた職員が多かった。

定期便になったことで水曜日以前の買い物にも先を見通せることができる。他の事業所にも提案し、定期便購入をお願いしていく。



今後の課題

就労継続支援B型事業に通所されている利用者に工賃を支払っておりますが、平成 30 年度の神奈川県就労継続支援B型事業の平均工賃 14,696 円に対して、当事業所の平均工賃は 15,820 円でした。現在、世の中がコロナ禍であり、近隣ヒルトンホテルの朝食バイキング中止に伴う納品の停止や対面販売の中止があり、昨年までの販売先の確保が難しくなっております。現在納品可能なスーパーマーケットやドライブインで売上の向上を計っていく。

利用者への工賃向上のためにも消費者目線に立ってニーズに合った商品の提供が求められる。



特定非営利活動法人あんとふる

【所在地】 石川県小松市

【対象者】 知的障がい者、身体障がい者

【日常の活動】

障がい福祉サービス事業（居宅介護、行動援護、同行援護）

地域生活支援事業（移動支援）

「利用者さんの外出支援に使う車両購入」

【助成額】 100 万円

実施目的

利用者さんと安全に外出するため、乗降に補助装置のある車両を購入する。

実施内容

※納車



得られた効果

老朽化していた車両の更新

すでに走行距離 10 万キロメートルを超えていた車両に代わり、納車翌日より運用を始めました。走りもスムーズで、ナビもつき(前者は後付けでもつけられなかった)外出支援で活躍しています。

今後の課題

助成申し込み後、新型コロナウイルスによる感染症拡大の影響で外出が自粛されるようになりました。

障害者の外出を支援する事業を主とする当法人でも、4～5 月はかなり厳しい状況となりましたが、6 月以降、回復し始めました。しかしいまだに外出をためらっている利用者の方が何人もおられます。

さらに同じ事業を行ってきたある事業所が、先が見通せなくなり事業を廃止することになりました。ますます、地域で自分らしく生活したいという障がい者の願いの実現が、遠いものになりつつあります。

地域全体が、障害のある人もない人も共に生きることを支える仕組みをどう作るかという大きな課題に対して、一つの法人・事業所として果たしていく役割をもう一度考え直さなければいけません。そして現実の日々の業務を積み重ねる中で、利用者さんとともに歩む姿勢を受け継いでいく人材を育てていくことが、私たちの課題と考えます。

特定非営利活動法人響愛学園

<http://kyoai-gakuen.com/>

【所在地】 愛知県一宮市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者

【日常の活動】

■児童福祉法に基づく障害児通所支援事業

「マーシーミュージック」（放課後デイ、児童発達）音楽専門活動

「マーシーアート」（放課後デイ、児童発達）アート専門活動

「マーシーアルテ」、「マーシーカーニバル」、「マーシーワルツ」、「マーシーアーティスト」
（放課後デイ、児童発達）音楽・アート専門活動

「マーシートレーニング」（放課後デイ、児童発達）音楽・機能訓練専門活動

■NPO法人響愛学園 響生教育事業

■アカデメイア合唱団（月2回）音楽専門活動

■インクルーシブオーケストラ「シンフォニー」（月4～5回）音楽専門活動

「マーシーワルツ 新規備品導入」

【助成額】 73万円

実施目的

発達障害を持つ子どもに大きく問題となっていた聴覚不全や集中力の持続を「トマティス」により大幅に改善し、更に音楽やアートの専門的能力の向上を目的とする。学校では指導されない生活のルーティンの確立や人との関わり、社会で生きていく上で重要な事柄を療育という形で支援する。障がいを持つ子どもが一生毎日を楽しく暮らしていく為、音楽やアートの芸術活動で能力を引き出し、余暇を過ごす中で趣味・やりがい・生きがいを見つける事が本事業の役割である。機能訓練後のアンケートでは80%の利用者から「改善できた」と効果が実証されており、本事業の実施で「トマティス」による機能訓練に特化した支援を行い、発達障害や聴覚不全の問題を抱えた子ども達に最適な療育を提供し、彼らが日常的に対面する諸問題を改善していく事を目的とする。

実施内容

聴覚トレーニング「トマティスメソッド」の実施

○場所:児童発達支援・放課後等デイサービス「マーシーワルツ」内

兵庫県神戸市中央区山本通4丁目9番15号 松田ビル1階

○人数:1日2～3名(1日10名定員)

○年齢:未就学児3名、小学生11名、中学生1名

○年間人数:770名(1回の利用を1人と数える)

○期間:2020年4月～2021年3月

○時間:児童発達支援・放課後等デイサービスのサービス提供時間内

(平日12:00～18:00、土日※9:00～15:00) ※日曜日は令和3年1月より

※4月11日～5月30日は通所支援を休業、代替サービスとして利用者の自宅にてトレーニングを実施。

トレーニング中はインターネット通話機能を使用し、利用者の様子・相談支援を行った。

○方法:児童発達支援・放課後等デイサービスのサービス提供範囲

得られた効果

当事業の実施により、年間 770 名(1 回 1 名とカウント)の利用者に聴覚トレーニングとして支援を行った。聴覚不全や発達障害特有の感覚刺激に対する過敏、身体の不器用さ等の改善を発揮されたと考えられる。また新型コロナウイルスの感染症防止の為、4 月 11 日より 5 月 30 日まで児童発達支援・放課後等デイサービスの通所支援としての事業は休業となった。その中でも国が定めた基準でもある代替サービスとして利用者の自宅での支援を継続して行い、休業期間中も 1 か月間で累計 40 名の障がい児が聴覚トレーニングを受ける事が出来た。一人あたり 14 日間の 1 ツールを 3 回行い、その都度行った聴覚検査やアンケートでは障害児や保護者からは聴覚不全 90%、記憶力 80%、読解力 80%、反応・反射 70%、精神面 60%の改善が見られたと応えられている。本事業でトマティストレーニングデバイス機器を 3 台購入した事で、トレーニング希望者への十分な支援と、予定としていなかった休業中の代替サービスも貸出を行う事が可能となり、トレーニングを希望する障害児の期待に応える事が出来たと考えられる。

今後の課題

当法人にとって今後の課題は、より多くの発達障害における聴覚不全を持った支援を必要とする障害児に聴覚トレーニング支援を提供し、かつ支援の幅を拡充する事であると考えられる。現在でも聴覚不全の改善後のフォローアップも重要視しており、体幹や脳と身体のタイミング機能を向上させる訓練機器や、自身の声で自分の耳を刺激できる聴覚受信強化機器などを用いて、児童の健全な発達を促していく取り組みにも注力している。聴覚不全を改善し、さらに日常生活の使いやすいものに変換していく事が大切な役割だと感じている。

現在、神戸市内における発達障害児へ支援の幅を拡充させる為、1 日に通所する定員を 20 名に増員する計画を進めています。今後も本トレーニング事業を行う事で、障害児の生きやすさ、聴覚不全改善、趣味、やりがい等を発展・促進させていきたいと考えています。



特定非営利活動法人社会的就労支援センター 京都フラワー

<https://flower-mh.wixsite.com/emamoemamo/untitled-mainpage>

【所在地】 京都府京都市南区

【対象者】 知的障がい者、身体障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

1. 就労継続支援A型事業
2. 指定特定相談支援事業
3. 就職相談

「相談支援事業所フラワーの訪問用車両購入事業」

【助成額】 80万円

実施目的

一つ目の目的は、事業拡大に伴い国の提唱する就労支援事業所に指定特定相談支援事業所を併設しました。利用者を計画的に受け入れ、計画的に支援し生活面にまでも配慮することができるからです。これにより、利用者と事業所の距離が近くなる好循環を生むと考えています。

二つ目の目的は、京都市内は指定特定相談支援事業所数が少ないので開設しました。また、京都府下の自治体では計画相談による支援でなければ、事業所の利用申請を受け付けないケースが増加中です。京都府下でも指定特定相談支援事業所が不足しており、ある自治体では2か月待ちが常態化する時期がありました。京都フラワーの利用者以外で、京都府下の方でも計画相談が受けられる体制を構築し、望む事業所にすぐに利用できる一助になればと考えています。

実施内容

実施内容1

令和2年1月1日に計画相談事業所 フラワーは京都市の事業認可を受け開所。計画相談事業所が利用者さんを計画的に受け入れ、計画的に支援し、生活面にも配慮する支援を実施することは大切な試みと考えています。就労継続支援A型事業所 京都フラワーの利用者さんの中には、障害福祉サービスを組み合わせて利用する利用者さんも存在します。そのためには、利用者宅、協力会社で働く利用者さんに面会し聴き取り調査が必要です。そして、関係機関につないでゆきます。また、新規利用者さんの障害福祉サービス受給者証申請は区役所でなければできません。計画プランを作成し区役所での申請は女性職員が助成金で購入したアルトで安全に出向いています。京都市内は、碁盤の目のような細い路地が続きます。軽自動車のアルトでは楽に移動でき、安全機能も付いており、利用者さん宅訪問は現在も無事故です。

実施内容2

計画相談事業所 フラワーは、京都フラワーの就労継続支援A型事業に関わる、新規利用者を受け入れ、そのプランを作成、在籍者の継続プランを作成してまいりました。例えば、新規利用者さんの計画プランを作成し、障害福祉サービス受給者証の申請は計画相談事業所の職員が、助成金で購入したアルトで役所に出向いて行います。その間に、就労継続支援A型事業所 京都フラワーのサービス管理責任者が各種契約書を準備することができます。この作業は、サービス提供責任者だけでは時間がかかり過ぎ、計画相談事業所 フラワーの相談支援専門員と事業所内で連携することで、雇用契約をすぐに結び、利用者さんを、1日も早く就労して頂けることにつながりました。

実施内容 3

計画相談事業所 フラワーのサービス等を提供する地域は、京都市内、京都府内の口丹地域、西部、南部地域となります。計画相談事業所 フラワーを開所した後、すぐに新型コロナウイルスが蔓延、2 度も緊急事態宣言が発令されました。2 度目の緊急事態宣言終了後、就労継続支援 A 型事業所 京都フラワーで働くことを希望する障害のある方が急増、多くは、新型コロナウイルス蔓延による雇止めで失職した方です。職場と職種は、主に京都市の中央市場、宇治市の中央市場の施設外就労先で青果袋詰め業です。ハローワークの求人を見て応募。まずは職場実習、その後、計画相談事業所 フラワーで計画プランを作成し購入したアルトで女性職員が役所に受給者証申請。2 回目の緊急事態宣言終了後の就職難の障害者就労の一助になったと考えています。現在は、府内の問合せが増加中でこの方たちにも対応します。

得られた効果

利用者さんの自宅訪問また、関係諸機関への訪問でも助成金で購入したアルトが活躍しています。また、京都市内の複雑な道路も路地は碁盤の目のように広がり、女性職員は普通自動車での京都市内の運転は苦手です。軽車両で安全機能付きアルトを女性職員が運転していますが、かなりの安心感があり、無事故で現在も運行しています。計画相談事業所は、京都フラワーの就労継続支援 A 型事業に関わる、新規利用者の受け入れ、在籍者の継続のプランを作成してまいりました。新規利用者、在籍者を計画的に支援し、生活面にまでも配慮することは、今までサービス提供責任者一人が対応していました。

しかし、計画相談事業を実施するために、キャリアの女性職員を採用しました。就労継続支援 A 型事業所 京都フラワーでは、他の事業所と併用する利用者さん。家庭の問題で荒れてしまう利用者さんも利用しています。計画相談事業所を開設するまで、事務長等、男同士で相談し対応していましたが、十分なものではありませんでした。女性の相談支援専門員が役所等と連携することで、女性または、主婦の目線が入るので、新たな提案もできるようになり、今後は、多くの意見を取り入れ、地域福祉権利擁護事業活用の提案、転職支援など、今までにない提案ができる効果が出ています。キャリアのある女性職員は助成金で購入したアルトを運転し移動し、区役所、ハローワーク、協力企業、社会福祉協議会、医療機関、利用者宅で折衝や交渉を続けています。そして、利用者の希望通りの着地点を見付けてくれています。車両 1 台を得たことで大きな効果が上がりました。

今後の課題

国の提唱は、就労支援事業所に指定特定相談支援事業所を併設する事です。事業を拡大し、利用者を計画的に受け入れ、計画的に支援し、生活面にも配慮するには、計画相談支援事業運営は必須です

しかしながら、どの計画相談事業所も管理者も入れて 2 名から 3 名で運営しています。京都フラワーも 3 名体制ですが、2 名が兼務で専任は 1 名です。研修会でお話を聴いていても、この実情はどこの事業所でも同様のようです。

たしかに、計画相談事業は、利用者の生活や就労を見守り、利用者の思う方向へ導く素晴らしい仕事です。しかし、経営してみて意外に収益が伸びません。専任職員の給与をなんとか捻出できるような状態です。新規職員増員は厳しいです。令和 3 年の障害福祉サービス報酬改定で、計画相談事業所の報酬単価は若干増えますが、今の状況に変わりはないでしょう。

利用者さんの生活と就労、そして就職までの道筋を開拓していくには、先にも記述しましたが、もう一人専任職員が必要ですが、京都フラワーのような NPO 法人がすぐに、新しい相談専門支援員を獲得することは報酬面で難しいです。今はこの体制で、如何に最大の成果と効果を得るかが課題となっています。

まだまだ、少ない京都市内の計画相談事業所、今後は外部の法人、利用者からの新規相談を受け入れ、京都市内の障害者福祉サービスが円滑に循環できる歯車となるように精進してまいります。



所定のマグネットステッカー



特定非営利活動法人キャンピズ

<http://campwith.jp/index.html>

【所在地】 大阪府大阪市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

就労継続支援B型事業所「ウィズ芦屋」

「就労支援作業備品の購入」

【助成額】 33万円

実施目的

就労支援事業所の改修及び設備工事を行うことで利用の方が快適な空間で仕事に取り組める環境整備

実施内容

就労継続支援 B 型事業所 ウィズ芦屋
企業からの受注作業（食品充填、シーラー）にシーラー機の導入予定。生産数が増えるよう体制を強化する。生産性がアップすると利用者倍増を目指す。

得られた効果

電動シーラー購入後、現行の受注の業者から新たに仕事追加の話を頂き、また、シーラー機の性能が高いため、商品の完成度も好評を企業からもらう。作業に携わる利用者の方にとっては、新しい機械が到着することで期待感、ワクワクがあって新しいことにチャレンジすることへの効果も期待できそうです。

今後の課題

生産性が向上したことで企業からの期待値が上がるそれに伴い、さらなる環境整備（食品衛生許可等）が必要となる。また、作業の質が求められ、利用者自身のスキルアップは基より、作業工程などわかりやすく、誰でもできる仕組みづくりが必要とされる。



特定非営利活動法人陽だまり

【所在地】 兵庫県丹波篠山市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者

【日常の活動】

- * 共働事業所陽だまり（喫茶、昼・夕食弁当配達、菓子製造事業）
- * 第2作業所：陽だまりげんき店（総菜販売・訪問販売）
- * 第3作業所（2019年陽だまりげんき店内に移転）（軽作業・農園事業）
- * 福祉コミュニティ事業（地域で働く障がい者の仲間が、2カ月に1回カラオケやお茶会を開催）
- * 障がい者福祉に関する啓発及び地域との交流事業（福祉団体との交流会、バザー参加、お餅つき大会開催、機関紙の発行）

「菓子製造用ラベルプリンター購入」

【助成額】 45 万円

実施目的

支援員の支援なく、障がい者スタッフが、クッキーの生地作りから成形、焼き、計量、袋詰め、ラベル印刷までの工程が出来る環境を準備する。

障がい者スタッフが、やりがいと自信を持って作業に取り組める。

1 枚のシールに材料、賞味期限、栄養成分等の情報の印刷が可能となり、作業が効率的に進む。

実施内容

共同事業所陽だまり内の菓子製造作業所に於いて使用。

ラベルプリンターには、クッキーの種類や内容量によるラベルを全て設定して頂いておりますので、製品に応じて、必要は枚数を印刷することができ、賞味期限に於いては、製造日の入力だけで自動計算されるので、間違いがなく作業がとてしやすいです。

得られた効果

ラベルプリンター購入により、クッキーの製造に関わる全ての工程を障がい者スタッフが作業出来るようになり、支援員にラベル準備を依頼することなく、作業効率も上がり商品の仕上がりも早くなり、障がい者スタッフもストレスなく作業に取り組めるようになった。

支援員の作業への関わりが少なくなったので、クッキー製造の作業に責任を持って取り組んでいるように感じます。

以前は、材料等、栄養成分、賞味期限と3 枚のシールを貼っていましたが、ラベルプリンター購入により、1 枚に必要な情報が入っているため、見た目もスッキリとして商品価値も上がったように思います。

今後の課題

後継者問題が深刻です。特に春から感染拡大が続く新型コロナにより、収入が減収となり、人員の募集もいまは、控えており先の状況が見えない状態です。

現在は、地域活動支援センターとして活動を行っていますが、就労継続B型への移行も考えております。



クッキー（レモン）		
名称	クッキー	
原材料名	小麦粉、マーガリン【食用植物油（国内製造）、食用精製加工油脂、食塩、脱脂粉乳】、砂糖、卵、レモン／乳化剤、香料、アナトー色素、膨張剤（一部に乳成分・大豆を含む）	
賞味期限	21. 1.11	内容量 100 g
保存方法	直射日光・高温多湿を避けて保存	
製造者	NPO法人 陽だまり 兵庫県丹波篠山市吹新117-4 TEL 079 (594) 4112	
※大豆・卵・小麦・乳製品を使用しています。		
栄養成分表示（100g当り） 熱量517kcal たんぱく質5.6g、脂質26.1g、炭水化物64.9g、食塩相当量0.7g		
株式会社日本食品機能分析研究所 調べ		

特定非営利活動法人ヘルパーGOGO

<https://helpergogo.net/>

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者

【日常の活動】

公暦に重症心身障がい児者を対象とした居宅介護、移動支援、放課後等デイサービス、生活介護事業、お泊り会

「AED 購入」

【助成額】 36 万円

実施目的

AED を購入、施設内に設置し、利用者の心肺停止時の救命率を上げること。

実施内容

助成金をいただいた後 AED2 台の購入手続きを開始し、12 月 4 日に手続きを終えて購入を完了しました。その後、生活介護と放課後等デイサービスの事業所それぞれに設置しました。また、使用方法の講習を受講しました。

得られた効果

AED を設置する以前は AED が必要な緊急事態が発生した際、近隣の施設(走って 5 分程度)まで AED を取りに行かなければならず、その間に救命率が低下してしまう恐れがありましたが、施設内に設置することで有事の際も速やかな救命救急が行なえるようになりました。そのことで、利用者がより一層安心してサービスをご利用できるようになりました。また助成していただいた金額分を、今後、重症心身障がい者のためのシェアハウス設立事業に充てることが出来ます。

今後の課題

生活介護サービスの利用希望者が増加しており、ニーズに応えるために事業を拡大していくことが課題です。また、生活介護利用者の親御さんの中には、在宅での介護に限界を感じてきている方もおられ、重症心身障がい者のためのシェアハウス設立も喫緊の課題となっています。



社会福祉法人芳友

<http://www.nikonikohouse.or.jp>

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 身体知的重複障がい者

【日常の活動】

- 療養介護 ■医療型障害児入所 ■生活介護 ■短期入所 ■児童発達支援
- 放課後等デイサービス ■居宅介護 ■移動支援 ■神戸市重度障害児者医療福祉コーディネート事業
- 病児保育 ■病院運営 ■福祉有償運送

「尿便器洗浄機更新」

【助成額】 100万円

実施目的

18年使用した尿便器消毒機の老朽化と、保守が受けられなくなり故障前の更新を図る

実施内容

サラヤ ベッドパンウォッシャー
(グリノックス3A)1台の導入



得られた効果

更新直前に故障し動かなくなってしまうが保守会社も無くベッド上で使用する尿器や便器が手洗いの状態であったが、機械が更新できた事で洗いの時間を別の作業に充てる事ができた。また国際規格で求められる消毒が蒸気による熱処理を行う事ができるので尿器、便器を清潔に保つ事が出来る他、複数同時洗いや今までの機械では洗浄できなかった痰や唾液の吸引ボトルまで複数同時洗浄が出来るので、洗浄時間の短縮、備品を清潔に保つ事ができ、更新できた事は非常にありがたい。

今後の課題

令和4年4月に開所する2施設目の開設準備、運営と、開設20年を超えた既存施設の計画的な設備更新

社会福祉法人 兵庫盲導犬協会

<https://www.moudouken.org/>

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 視覚障がい者

【日常の活動】

1. 盲導犬育成事業

盲導犬の繁殖、育成、訓練管理

2. 無償貸与事業

盲導犬使用者に対する訓練及び社会参加の為に支援、福祉サービスの提供

3. 盲導犬啓発事業

学校講演、一般講演、見学会、イベント参加、街頭募金

「盲導犬候補犬育成環境整備のための備品購入」

【助成額】 49 万円

実施目的

優良な盲導犬の育成には衛生管理及び健康管理が不可欠です。当協会では 60 頭の犬を所有し、訓練センターには常時 25～30 頭の犬がおり、日々全頭の衛生管理、健康管理を徹底しております。出来るだけ医療機関を受診する状態にならないよう未然の予防を心掛けて医療費の抑制に努めて参りました。ところが一昨年夏頃からエアコンのカビ菌が原因の皮膚病を発症する犬が出てしまいました。また冬場にはケンネルコフ(伝染性気管支炎)の蔓延を防ぐための更なる空調管理の必要性が増してまいりました。定期的なエアコンフィルターの掃除や清掃業者による本格的な内部掃除を行っておりますが、今回更にカビ菌や雑菌の拡散を防ぐための次亜塩素酸空調除菌脱臭機「ジアイーノ」の設置を検討し、その資金助成をお願いしたく申請いたしました。

実施内容

当訓練センターには 30 頭収容可能なサークル、シャワーコーナー、グルーミングコーナーを備えた犬舎(約 130 ㎡、約 78 畳)と繁殖、出産後の見守りをおこなう繁殖室(約 23 ㎡、約 14 畳)があります。いずれの部屋も常時訓練犬、PR 犬が多頭おり、当施設にとって重要な部屋であります。今回、2 部屋に 3 台のジアイーノを設置し空調管理の徹底を図る予定です。

犬舎(78 畳)	F-JDS70-W(～56 畳使用可能)	1台設置
	FMV4100-SE(～14 畳使用可能)	1台設置
繁殖室(14 畳)	FMV2100-WZ(～12 畳使用可能)	1台設置



得られた効果

昨年の8月 18～24 日の間に順次 3 台のジアイーノが入荷しました。昨年の夏は、例年になく高温の暑い日が続いておりましたので、早速、各部屋に設置し使用を始めました。

犬舎では、コロナウイルス感染症の影響でエアコンをつけて窓を閉め続けることができず、時々換気をしながらのフル稼働になりました。

昨年は 6 月にイエローの子犬が 6 頭、7 月にはブラックの子犬が 5 頭生まれました。7 月に生まれた 5 頭と母親犬は、繁殖室において一番デリケートで大切な時期を除菌、脱臭された清潔な空気の中で過ごすことができました。現在は、それぞれパピーウォーカーボランティアのお宅で病気もなく元気に成長しており、今年 7 月には協会に帰ってきて、盲導犬になるための訓練を始める予定です。

冬場を迎え、犬舎ではジアイーノをフルに動かしたおかげで、現在までカビ菌が原因の皮膚病やケンネルコフの発生はゼロに迎えることが出来ており、その分の医療費と時間の節約が可能となりました。

今後の課題

トラスコ中山株式会社、中山社長が私財を投じて 1997 年に設立された、中山視覚障害者福祉財団の新ビルが 9 月中旬に完成します。その中には、神戸視覚障害者福祉協会、兵庫県盲ろう友の会等、視覚障害者支援団体様が入居され、その中に私共兵庫県盲導犬協会も加えていただき、1 室をオフィスとして提供いただけることになりました。

今後、それらの団体様との連携を深め、視覚障害者への情報とサービスの提供ができる人材の育成が急務になります。また盲導犬希望者が増加する可能性があるため、それに対応できるように健康で優秀な盲導犬候補犬を増やしていく必要があります。



特定非営利活動法人ラーフ・ウッド福祉会

【所在地】 兵庫県姫路市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者
難病患者

【日常の活動】

■就労継続支援B型、生活介護の利用者さま支援

「農業」、食品加工、喫茶業、クリーニング、清掃など

■「ろう文化と手話を広めるための事業」

1か月に1回「デフハンド」の開催。イーグルひめじにおいて、交流会を実施。広島や岡山、神戸、大阪からも参加者がある。1か月に2回当事業所内で手話の研究や交流をしている。

「就労事業の農業に使用「軽トラック」購入」

【助成額】 100万円

実施目的

農業をするにあたり、さまざまな道具、機械、収穫物を運ぶために使用する。

実施内容

主に、当法人が農業を行っている場所で使用している。
姫路市豊富町御蔭付近

得られた効果

当法人が行っている農業には絶対に欠かせない道具、機械、収穫物の運搬に使用しています。
現在、農業を行っている圃場面積は約7haあります。とても広大な面積ですので、道具や機械を運ぶには軽トラックが必要です。この度、助成していただいた軽トラックのお陰で、運搬作業がとてもスムーズになりました。
広い圃場なので、運搬作業の時間短縮ができ作業効率も上がりました。

今後の課題

工賃アップをするためには、農業の機械化が必須です。現在の農産物の価格は、手作業による労働では全く採算が合いません。第六次産業化や機械化を推し進めなければ将来が見えてきません。これらのためには設備投資が必要になりますが、資金力がありませんので大きな壁になっております。



特定非営利活動法人創作工房ゆう

【所在地】 兵庫県姫路市

【対象者】 知的障がい者

【日常の活動】

障害福祉サービス事業所である「さをり工房ゆう」（就労継続支援B型、定員27名）を通年実施し、知的に或いは身体に障害のある利用者約22名がさをり織りの創作とその芸品の販売やさをり教室のお客さまサポートなどの就労支援事業をしています。

創作・表現活動を通じた地域社会との交流発信事業では、毎年「夏休み子どもワークショップー織りで遊ぼう」を実施し、利用者と子どもたちがさをり織りの体験を通じて交流しています。また、年1回主に障がいのある人の作品展を「さをりstudioゆう」にて実施し、障がいのある人たちのアート活動を地域社会の人々に発信しています。

「グループホーム新規開設に伴うエアコン設置」

【助成額】 60 万円

実施目的

障がいのある人たちが親亡き後も地域社会の中で、慣れ親しんだ仲間と一緒に日中活動の場を継続しながら、豊かに生活できるよう夜間の生活の場「グループホーム」を設立します。

実施内容

グループホームゆう（姫路市辻井7丁目2番 17-1）

ー以前のさをり工房ゆうの従たる事業所「手織屋ゆう」ー

2020年7月より、就労継続支援 B 型事業所「さをり工房ゆう」の従たる事業所「手織屋ゆう」を大規模改修し、グループホームの設立を目指して改修工事を進めてきました。2020年12月1日無事に指定を受け、「グループホームゆう」を開所する事ができました。大規模改修工事の完成が11月上旬までとなり、11月14日（土）に7台のエアコン工事を行いました。残る1台については、エアコン設置工事のための下見時に、エアコン用コンセントの位置にエアコンをつけると収納扉が当たることが判明、急遽収納扉の位置設置換え工事を行い、完了後の11月19日に設置工事が行われました。

得られた効果

グループホームの各居室 6 室とダイニングキッチン、2階フリースペースにエアコンがついたので、12月1日から開所した「グループホームゆう」の利用者5名が、快適に生活する事ができています。



今後の 課題

就労継続支援 B 型事業所「さをり工房ゆう」の従たる事業所「手織屋ゆう」を改修して「グループホームゆう」にしたため、現在「さをり工房ゆう」の利用者が全員本部「ギャラリーゆう」に集って（内6名が出張所「さをり studio ゆう」で勤務）仕事をしています。そこで、「ギャラリーゆう」が大変手狭となっています。コロナ禍でもあり、なるべく早い時期に、「ギャラリーゆう」の隣地を購入して増築をして、B 型事業所の過密状態を改善したいと思っています。



特定非営利活動法人江井ヶ島作業所

【所在地】 兵庫県明石市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

就労継続支援B型事業所の運営

内職作業（お箸セット、カプセル詰合せ、シール貼り、商品販売（自販機等）

「作業椅子の買い替え」

【助成額】 24 万円

実施目的

作業用いすの老朽化により、安全面での不安と身体への負担を軽減し、生産性の向上につなげたい。

実施内容

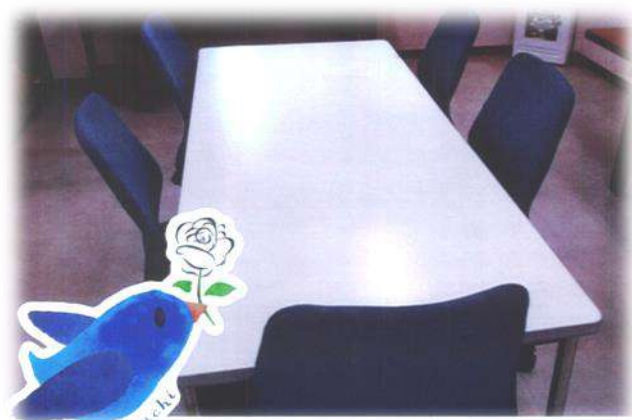
江井ヶ島作業所内の現在使用中の作業椅子をすべて新しい椅子に替えました。入口の展示スペースに木口福祉財団寄贈の椅子の写真を展示。

得られた効果

椅子の安全性と作業時の身体への負担が軽減でき、今まで以上に作業に集中できるようになり、工賃UPに繋がっていくと期待しています。今までは、自分の作業椅子として認識できていなかったのが、扱いも雑であったのが自分の椅子として丁寧に使っていただけるようになった。木口福祉財団助成の写真を貼ることにより、来客者・見学者へのきれいな椅子をアピールでき、当作業所を利用する要因にもなっている。

今後の課題

机に向かってする仕事も今まで以上に頑張っていき、内職だけでは無く、物品販売等にも力を入れていきたい。自社製品の開発、農産物の栽培・販売等、今まで取り組まなかった事にもチャレンジし、地元の方との交流を増やしていきたい。



社会福祉法人明桜会

<https://www.meiyoukai.com/>

【所在地】 兵庫県明石市

【対象者】 知的障がい者

【日常の活動】

■障害福祉サービス

（障害者支援施設、短期入所、日中一時支援、グループホーム、生活介護、就労継続B型、就労移行、就労定着、相談支援）

■明石市障害者就労・生活支援事業

■明石市総合福祉センター新館 地域共生社会推進業務（障害者スポーツ理解促進・体験事業、日常清掃業務）

「車両（車いす対応）購入にかかる費用の助成」

【助成額】 100 万円

実施目的

- 送迎車両の老朽化による買い替え
- 高齢化・重度化・多様化（身体障害のある利用者増加）を踏まえ、車いす対応車両に変更
- 災害時の移送手段として（福祉避難所としての役割）
- 法人内事業所での共有（イベントや外出等）

実施内容

- 2020 年 10/16 新車ノア、納車完了 場所:すたじおぼっち
- 2020 年 11/2 事業所名ステッカー制作・貼付完了(すたじおぼっち負担)

得られた効果

- 旧車両は度々、不具合ありいつ故障してもおかしくないという不安がありました。新車両になり安心して日々の送迎・活動に利用できています。
- 以前は車いすの方は個別で送迎をしていましたが、今回の車両で、複数名での外出（送迎）が可能となりました。
- すたじおぼっちのロゴマーク（食パン）をステッカーに。目印として広報や、近隣地域の方との交流のきっかけにもなれば。



今後の 課題

■法人内で複数事業所・多くのご利用者を支えています。車の台数は十分とは言えず、また順次、買い替えの必要な車両が複数ある状況です。今回、購入させていただいた車両は、法人内でも緊急時や必要な活動時に共有し、幅広く活用させていただきます。



特定非営利活動法人淡路障害者連絡会

【所在地】 兵庫県洲本市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

■就労継続支援B型

Lunch & Cafe AMIAMI (ランチ・アンド・カフェ・アミアミ)

淡路県民局食堂 AMIAMI+1 (アミアミ・プラス・ワン)

県立淡路病院 (ハンドメイドショップ・アミアミ)

■共同生活援助

アミアミハウス (グループホーム)

「パソコンリニューアル」

【助成額】 86 万円

実施目的

パソコンを利用できる利用者様を育てる。

事業所で作った淡路島の新鮮な食材を使用したスイーツの販売をするホームページを作成する。

一般就労を目指す利用者様にパソコン教室を実施する。

実施内容

実施場所:兵庫県洲本市塩屋 1-1-17

特定非営利活動法人淡路障害者連絡会 アミアミ

ホームページアドレス:<http://www.amiami2012.jp>

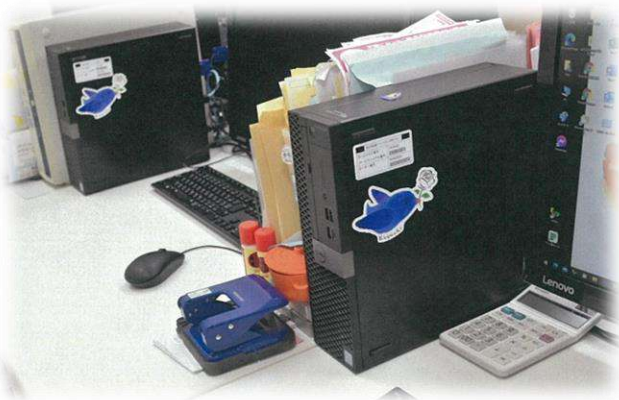


得られた効果

- 事務所のパソコンと利用者様専用のパソコンをリニューアル出来た事により、事務作業が円滑に行われるようになった
- 販売できるホームページを作成した事により、今後ネットを通して幅広く障害者が作った、淡路島のアミアミブランドのスイーツを知っていただく機会が出来た。
- ふるさと納税でアミアミブランドの製菓の販売が出来た事により、売上が上がり今後の工賃向上に向けて良い足がかりをつけられている。

今後の 課題

- 一般就労に向けたパソコン教室を予定している。
- 施設の老朽化に伴い店舗部分や作業スペースもリフォームが必要になってくる。
- 福祉経験者の職員不足。



特定非営利活動法人兵庫大阪ヒューマンホープ

【所在地】 兵庫県伊丹市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

就労継続支援A型事業所の運営

折り、加工、組立、封入等人の手にしかできない、機械ではできない作業を中心に従事しています。

「卸販売管理ソフト導入 障がい者給与増と希望増」

【助成額】 81万円

実施目的

当事業所での新たな取り組みの一環として、一般企業と変わらない同じモデルの売り上げ増加を意図し、福祉施設であっても一般企業と変わらない仕組みづくりや運営をめざしていく事で価値を創造し、また、IT導入による業務効率化と簡素化を実現することが実施目的となります。さらに社会生活上相当の制限を受け、人としての生きる権利や生活の謳歌を極めて享受しにくい障がい者の方々の給料増額と生活の安定化も基本実施・実現目的であり、生きる希望や少しの援助で働くことが可能となる障がい者の方々の一度きりの人生に、喜びと希望を与えうる社会生活環境の構築と醸成にも直結する試みであると確信し、それらの達成が最大の目的でもあります。

実施内容

「らくらく卸管理ソフト」をインストールし、まず勉強、熟知することからスタートしました。非常に便利で顧客情報や商品マスタ登録などを行い、売上管理として登録していくと簡単に締め処理や、月次売上並びに納品書や領収証も印刷発行できるシステムであり、今までの得意先への卸販売や小売販売等を毎日実施させて頂いています。商品は自社商品のドライフルーツ8品目とナッツ類5品目並びに新製品である当法人マスコットキャラクター「ホープくん」等の販売を行っております。今までと比べて、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、新規開拓や営業を率先して行えておらず、やりきれない思いではありますが、既存顧客でのソフト顧客管理、販売管理、品目管理等を障がいのある利用者様と共に職員も含み、操作訓練や販売の就労支援、収益をあげて給与増加のための目的に使用させていただいています。

得られた効果

第一の成果と効果として、現在新型コロナウイルス感染拡大防止のため、積極的な営業や新規開拓等の販売営業など実施できておりませんが、従来からの顧客や得意先への卸販売、小売販売等は実施しており、その中で、当事業所職員や障がいのある利用者様もまずパソコン操作や今回のソフトの入力の仕方、管理の仕方、また、どこに何が連動し各項目名に直結するか等のスキル向上や物事の整理、売上UPの考え方の醸成など多岐にわたり、就労というカテゴリの訓練になっております。この就労というカテゴリは一般企業でも通じる部分が多々あり、一般企業と変わらない仕組みづくりや業務効率化や簡素化を実現できつつあります。

第二の成果と効果は、今までワードやエクセルで納品書、領収証を出力していたので、非常に効率が悪く、大変でしたがこのソフト活用により一連の操作と登録で容易に納品書と領収証が出力でき、法人印も登録されているため、カラープリントで角印の押印の必要もなくなり、多大なる業務効率になっております。

第三の成果と効果は非効率がなくなり、今後も操作や各項目の役割を学び、スキルを向上させることで非常に効率的になり、今までロスしていた時間の無駄をなくす事が大幅に可能となり、売上UPの企画や営業活動、新規開拓や新規販売に時間を有効活用できる流れとなり、大幅な売り上げ増加を見込むことができるようになります。売り上げ増加を実現できると障がい者の給与も増、希望も増加させることにつながり、事実徐々に売り上げ増になっております。

今後の課題

これから冬に向かいインフルエンザや新型コロナウイルスなど感染拡大防止や感染を回避しながらの営業活動と新規開拓によるさらなる売上増加を意図した行動・活動を展開していく必要性があります。しかも非常に多くの持病がある障がい者の方々の感染防止を徹底して行い、感染させてはならない状況の中で、経済活動との両立に苦しんでおります。顧客や得意先、一般企業も影響を受けており、各種軽作業のお仕事も少なくなったりしていますが、常に彼らの生活の保障や基盤のことばかりを頭で考えております。最低賃金が兵庫県も毎年増加していき生活の質が上がっていく見通しの中で障がいのある方々もコロナの影響を受けており、この未曾有の事態を乗り越えることが最大の課題であります。

何とか感染防止と経済活動の両立を達成したいと願っています。らくらく卸管理ソフトにつきましては、操作や各項目の名称と役割、一連の流れを覚えるまでが難しいですが、これがまず障がいのある利用者様の第一の課題となり、この課題をクリアできたら第二の課題として法人の売上増加と新規開拓、経済活動と給与増、規模増により、本当の意味での法人経営安定化並びに障がいのある利用者様の生きる希望の擁立が課題となります。喫緊の課題は、一般企業と同じに障がい者の方々に賞与を支給することです。



特定非営利活動法人セルフサポートいずし

<http://www.w-daichi.or.jp/>

【所在地】 兵庫県豊岡市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者

【日常の活動】

■生活介護事業 3カ所 ■就労継続支援B型 2カ所 ■就労継続支援A型 1カ所

■児童発達支援事業 1カ所 ■放課後等デイサービス事業 1カ所 ■共同生活援助事業 1カ所

「作業用車両の購入」

【助成額】 100 万円

実施目的

作業用車両を増やすことにより、地域交流と利用者さんの工賃アップを目指す

当法人では受託作業として、豊岡市や民間業者、地域の個人のお客様から依頼を受けております。しかし現在外作業に使用できる車両が、キャラバン1台、ハイエース1台、軽のバン1台(いずれも送迎車と兼用)、軽トラック1台のみです。

最近では依頼件数も増えてきておりますが、車両が足りずに調整させていただいている状態です。今まで依頼していただいたから、「丁寧に作業していただいている」「障がい者の方は真面目に仕事をしてくれている」との評判もいただいているため、今後更に外作業を増やしていきたいと考えており、今回の申請に至りました。

実施内容

兵庫県豊岡市大手町2-25 らいふステーション 除雪作業

豊岡市はここ2~3年あまり雪が降らなかったのですが、今年は久しぶりに12月から大雪となりました。

冬時期は除草作業はないのですが、アパート清掃はしています。今は雪が沢山降るため頂いた軽トラックで除雪した雪を積んで川などへ捨てに行くことに使用させていただいております。但馬地方の雪は湿気を多く含んでいるため重く、少しの雪でも運ぶのが大変です。また捨てる場所にも苦慮します。その点で軽トラックをいただいたことにより、今年の冬の雪は荷台に沢山雪を積んで運んで捨てに行くことができ大変助かっています。また高齢者世帯からの除雪作業の依頼をいただき、使用させていただいており、新たな仕事の確保ができました。

得られた効果

今後新たな仕事の開拓、確保が期待できます。まだ軽トラックを使い始めて間もないので、大きな成果・効果は上がっていませんが、前述のとおり今は雪の季節なので、新たな仕事として除雪作業ができるようになりました。但馬地方では除雪作業は大きな課題であります。但馬地方も高齢化が進む中で、屋根の雪下ろし、家の前の除雪は日々大変で、高齢の方には大きな負担です。軽トラックをいただいたことにより、除雪という新たな仕事が確保できたと同時に地域への貢献もでき、今後新たな展開も期待できると思います。

春になれば今度は除草作業などにも使えるため、除雪作業と同様に利用者の方の仕事の開拓・確保と地域への貢献などが期待でき、私たちが望む「障がい者の方が地域で普通に生きる」の実現に向けて一歩近づけることができると考えております。

今後の 課題

外作業に従事する職員・利用者の確保

現在除草作業やアパート清掃に従事する職員は1名で、その職員も65歳を超えてきております。若い職員も同行したり経験したりして後継者作りを図っていますが、専門技術も必要なためなかなか次を担う職員が育っていない状態です。

また、利用者の方も今出ている方が高齢になってきており、熱中症など色々な心配が出てきております。若い利用者の方にも積極的に出てもらえるよう声かけして、新たな人材確保を図っている最中であります。



西脇・要約筆記ちょうちょ

【所在地】 兵庫県西脇市

【対象者】 身体障がい者

【日常の活動】

- 要約筆記技術向上のための研修（西脇市登録要約筆記者向け、年3回）
- 要約筆記の啓発活動（西脇高校生福祉授業、福祉まつりなど）
- 市内・市外に関わらず難聴者同士の親睦会（おしゃべりカフェ）
- 要約筆記技術向上および要約筆記認定試験合格のための活動

「音声認識アプリを活用した情報保障のための機器購入申請」

【助成額】 23 万円

実施目的

UD トーク字幕の啓発と難聴者・高齢者の支援

- 要約筆記者の資格がないサークルメンバーも、UD トーク（音声認識アプリ）を活用することによって、支援活動に参加できること。
- 情報保障の選択肢として、手話、要約筆記だけでなく、音声認識字幕という新しい選択肢を広く知ってもらうこと。
- UD トーク音声認識字幕は、要約筆記の難しい技術は必要なく、誰でも簡単に利用できるもので、聴覚障害者・高齢者とのコミュニケーションツールとして活用していただきたい。

実施内容

【社協開催講座の UD トーク音声認識字幕の全体投影】

- 10 月 12 日 地域ボランティア講座（第 1 回）「まちづくりとボランティア」
- 10 月 26 日 地域ボランティア講座（第 2 回）「地域とこころの健康」
- 11 月 19 日 地域ボランティア講座（第 3 回）「傾聴とは」
- 12 月 3 日 地域ボランティア講座（第 4 回）「障がい者の地域での生活」
- 1 月 22 日 生活支援サポーター養成講座（新規・登録者合同）「高齢期をいきいきと暮らすために」
- 1 月 26 日 生活支援サポーター養成講座（新規者のみ）「認知症の理解」
- 2 月 5 日 生活支援サポーター養成講座（登録者のみ）「認知症の方との接し方」
- 2 月 15 日 生活支援サポーター養成講座（新規・登録者合同）「コミュニケーションについて」
- 2 月 25 日 生活支援サポーター養成講座（新規のみ）「生活支援サポーターについて」
- 3 月 2 日 生活支援サポーター養成講座（登録者のみ）「高齢期の健康づくりについて」

【各メンバー自宅より、西脇市議会インターネットライブ中継に、UD トーク字幕を同時配信】

- 6 月 8 日、6 月 12 日、6 月 25 日、6 月 29 日、7 月 3 日、7 月 13 日、8 月 7 日、8 月 11 日、8 月 25 日、9 月 1 日、9 月 7 日、9 月 10 日、9 月 11 日、10 月 13 日、10 月 15 日、10 月 30 日、11 月 10 日、12 月 9 日、1 月 8 日、1 月 21 日、2 月 12 日、3 月 10 日（計 22 回）

得られた 効果

UD トークアプリの周知と難聴者・中途失聴者への理解がすすんだ。

【社協の UD トーク字幕全体投影活動】

UD トーク字幕があるから、講座に参加しようと思った、と聴覚障害者の方から言われました。手話であれば、ずっと見ておかないといけないが、音声認識字幕であれば、メモを取れる時間ができてよいとのこと。わざわざ派遣を自分で依頼することもしないで、参加したい講座に参加できることに喜びを感じていらっしゃるようでした。このような情報のバリアフリー化で、聞こえる人と同じように、受講できるという、社会的障壁を主催者や受講者の方に理解していただけたと思います。また、講座の受講生の方から、使い方を聞かれ、ご興味を持たれた方もたくさんいらっしゃいました。多くの方に音声認識字幕を実際に見ていただくことで、聴覚障害者・高齢者の方のコミュニケーションツールを知っていただけたことは、大きな成果だと思っています。

【西脇市議会インターネットライブ中継の字幕配信活動】

コロナ禍で、集まって活動することができなくなり、それでも何か社会に役立つことを考え、各自宅からリモートで字幕修正をすることにしました。この活動から、西脇市議会に障害者への合理的配慮を考えていただける機会になり、また新議場(今年5月に移転)からは、議場に字幕配信できるように検討していただくことになりました。

今後の 課題

メンバーの誤認識修正技術(パソコンスキル)と技術の均一化

コロナ禍での講座開催は、密を避けるために、会場で設営&配信担当はメンバー1名とし、その他は自宅から遠隔で誤認識修正を行いました。現場1名の設営&作業などが、他のメンバーからはわかりにくく、経験がその一人に偏ることとなりました。今後は、他のメンバーにも技術や経験を伝え、誰でも、UD トークを使いこなせるようになりたいです。



テープライブラリー宝塚

【所在地】 兵庫県宝塚市

【対象者】 視覚障がい者

【日常の活動】

官報では宝塚市の広報誌「広報たからづか」、宝塚市議会発行の「議会かけはし」、宝塚市立図書館の「図書館だより」、社会福祉協議会発行「社協たからづか」、年3回発行の「身障連だより」を各班に分かれ作製発送している。

また図書館に依頼された図書の音訳CD「録音図書」を製作する。図書館より依頼された「図書館協議会」の協議委員を務めている。

当会オリジナルのその時々話題や役に立つ情報、小説などを盛り込んだ「時の話題」などを作製する。

視覚障害者の依頼により図書や取扱説明書などの音訳CDを作製する「プライベート図書」、図書館の対面朗読室で対面し朗読する「対面朗読」、指定された場所に出向き朗読する「訪問朗読」など。

隔年で開催する、朗読会。

各班や個人で行うスキルアップのための自主勉強会。

F M たからづか朗読番組出演。

視覚に障がいのある方を対象にし、幅広い知識や教養、技術を習得するとともに、交流の場とし生きがいづくりを図る「宝塚市青い鳥学級」に参加し活動の補助を行う。

「パソコン購入、勉強会講師料」

【助成額】 16 万円

実施目的

ボランティアグループである私達は毎月広報たからづか、議会報他を音声訳し、パソコンに収録、音楽 CD を作成して視力に障がいのある、登録いただいている方々に情報をお届けしております。現在使用のパソコンにビスタやウィンドウズ7などサポートの終了しているものがあります。新しいパソコンに入れ替えることでパソコンの不具合等の心配もなくなります。スムーズな収録、編集や書類作成にあたり新機能を利用できます

実施内容

9 月 23 日 宝塚市内 ジョウシン電機 中山寺店にて パソコン 1 台を購入致しました。
当初の見積もりと同じ品物がありませんでしたので、同程度の機能、金額のものを探しました、お陰様でこのパソコンを購入することができました。誠にありがとうございました。

得られた効果

パソコンが新しくなったことで、収録、編集などを安心して行うことが出来ます。
また、多機能を習得し、今後の活動に活かしていきます。

今後の 課題

2018 年度まで視聴者のご希望もあり発送の主流はカセットテープでした。市の協力を得て視聴者の方々の同意を得ることにより 2019 年度より音楽 CD での発送が実現しました。パソコンでの収録となりましたが、現在全ての流れを把握しているものは限られ、今後活動や研修を通じて皆が流れを把握し、パソコン操作ができるようになることが必要です。収録、編集等がスムーズにおこなわれるよう頑張ります。それと同時にまずは音声訳が重要です。聴いて下さる方に聞き取りやすく、分かり易い発声、朗読の向上が必要です。現在講師を迎え、勉強会を開催しています。会員には地方出身も多くアクセント等様々です。勉強を重ね、視力に障がいのある方たちに少しでも分かり易く、楽しんでいただければと思っております。また広報誌等だけでなく私達オリジナルの「時の話題」の内容の充実を図り喜んで頂けますようお願いしております。



株式会社 TunagDesign

<http://www.shigotoba.work>

【所在地】 兵庫県丹波篠山市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者、難病患者

【日常の活動】

就労継続支援 B 型事業所の運営

「企業と就労希望者をつなぐ新事業立ち上げ」

【助成額】 23万円

実施目的

老朽化に伴う入れ替え

実施内容

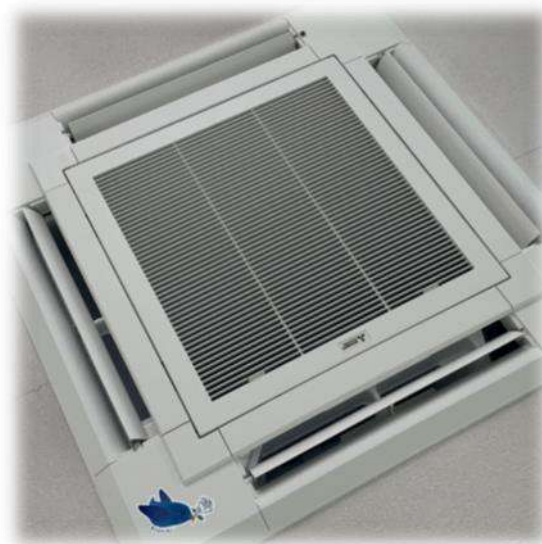
事業所内エアコン入れ替えに伴う新規購入および工事

得られた 効果

冷房費削減

今後の 課題

コロナの影響による利用者減に対する収益改善



社会福祉法人さつき福祉会

<http://www.satsuki-wel.or.jp/>

【所在地】 兵庫県養父市

【対象者】 知的障がい者

【日常の活動】

入所施設・短期入所事業、生活介護事業、就労継続支援B型事業、共同生活援助事業、相談支援事業

「福祉避難所備蓄食保管倉庫及び生活介護事業備品倉庫設置事業」

【助成額】 24万円

実施目的

- ①障害者支援施設琴弾の丘は施設入所50名、生活介護事業の利用者59名である。また、養父市福祉避難所及び指定緊急避難所に指定されている。現在、保管場所は施設外部の倉庫に保管しているが、衛生環境、厨房からの動線が悪く保管場所の変更が長年の懸案であった。
- ②琴弾の丘の生活介護事業所では絵画を中心とした芸術活動を行っており、これまでも兵庫県芸術文化祭等で数多く受賞している。一方で増え続ける作品の保管スペースの確保も課題である。

実施内容

障害者支援施設琴弾の丘交流棟（指定緊急避難場所）の空きスペースに福祉避難所関係の備品、備蓄食の保管、入所者用備蓄食の保管・芸術作品の保管のため倉庫を設置した。

ヨド物置エルモ LMD-1815×2棟
規格幅 1870 mm 規格奥行 1520 mm 規格高 2120 mm



得られた効果

現在の備蓄食の保管場所が屋外倉庫であったため、埃や虫等が入りやすい環境にあり兵庫県からも保管場所としては不適切であるという指摘を受けていたが、屋内に設置したことにより環境面で大きく改善された。収容スペースも増え、備蓄食の量も増やすことが出来、利用者と職員の食材だけでなく避難者の食材も保管することが出来るようになった。本年度は特に新型コロナウイルス対策の衛生用品の保管場所としても活用している。

今後の課題

利用者の高齢化により活動内容の見直しが必要となっている。農耕班が野菜を栽培したりアルミ缶回収・缶つぶし等授産事業を行っていたが携われる方が少なくなって農耕班を存続させることが難しくなった。収入は減るが授産事業の作業から絵画等の余暇活動のウエイトを上げ、利用者の体力に見合った日中の過ごし方を模索している。

八鹿 RVC ひよっこ

【所在地】 兵庫県養父氏

【対象者】 視覚障がい者

【日常の活動】

養父市社会福祉協議会から、年2万円の補助を受けている。

養父市と社会福祉協議会の広報を録音し、視覚に障害のある方に届ける活動をしている。

「録音機器、CD作製機材など購入」

【助成額】 13 万円

実施目的

毎月1回「市広報やぶ」「養父市社協だより かけはし」を録音し、「声の広報誌」として視覚障害者の方の手元に届ける。

実施内容

①毎月1回、公民館の一室で、定例会を行う。(公民館の公認団体になっているので室料は無料)

■当月の市広報と社協だよりを配布し、全員で目をとおす。

■各記事の内容の理解、文言の意味や読みなど確認。

■読む分担を決める。「広報」は数名で、「社協だより」は一人で読む。

■活舌練習、読む練習をする。

②録音する

■定例会の数日後、録音、ダビング、チェック、袋づめ作業を行う。

■録音場所はここ 10 数年、養父氏の情報センターの会議室を使っている。

■午前 9 時過ぎから午後 2 時過ぎまでかかる。

③利用者さんの指定袋(視覚障害者用)にテープ二本を入れ、郵便局に届ける(郵送料無料)。

④情報センター・ふれあいネットに1セット届ける。

これを局の方で1時間に編集し、市のケーブルテレビでも放送されるようになった。

⑤社協へ2セット届ける。福祉関係の施設、集まりでの放送、他地域での利用を期している。

得られた効果

■利用者さんから待たれている。

■特に各種補助金などの支給がある時期には問い合わせの電話もある。

■養父市情報センターによる放送「ふれあいネット」で放送されるようになった。

■テープの音声に合わせて、画面ではページをめくり該当の記事がある。

■この放送は広く健常の方たちもよく見ておられる。

1時間にまとめられ好評である。放送が午後4時というのもいいのではないかな。

■放送の最初の部分で、「八鹿 RVC の皆さん」ということでメンバーの名前が出る。

知り合いから「がんばっておられるね」と声をかけられることもあり、やりがいを感じる。

今後の 課題

- 最近、カセットテープの生産が少なく、これまでの倍ほど高価になっている。
- 基金でいただいたパソコン、CD カセットデッキを使って CD 録音を可能にしたい。
- 利用者さんのお持ちの機器や便宣についておたずねし、よければ CD をお届けする。
- CD 作製を機に、他地域（養父、大屋、関宮）などで、利用者さんを増やしていきたい。



社会福祉法人朝来市社会福祉協議会

<https://www.asagoshakyo.jp>

【所在地】 兵庫県朝来市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

地域ボランティアと協力・連携をしながら地域の高齢者が気軽に集まれ、お喋りや介護予防体操を楽しめる「集いの場」の推進を行うとともに、台風等により当市・近隣市町が被害を被った場合、支援ボランティアの募集・派遣を通じて被災者支援を行っており復旧に一定の役割を担っている。

「障がい者（児）複合型多機能施設備品整備」

【助成額】 78 万円

実施目的

令和 2 年 12 月末に障がい者当事者団体はじめ多くの関係者の意願であった複合型多機能施設が完成し、令和 3 年 1 月より既存事業をスタートし、この助成事業の対象であるグループホーム（共同生活援助事業）を 2 月 1 日より開始。このグループホームで利用者の金銭感覚等を中心に自立支援を目指しコインランドリー型の洗濯機の設置を進めます。

実施内容

令和 2 年 2 月よりグループホームがスタートし、あさごふれ愛の郷あおぞら 2 階にて現在、本入居を目指し、男性 1 名、女性 2 名が体験入居されています。貴財団から助成いただき購入いたしました「コイン洗濯機」を活用し、自立生活に向け取り組んでいます。

得られた効果

利用者の方はご本人で洗濯をされたことがなく、洗濯を行うという取り組みからスタートし、「洗濯」「脱水」「乾燥」等を学ばれ、次のステップとして貴財団から助成いただき購入いたしました「コイン洗濯機」によりご本人の所持金の中からお金を払い、身の回りの衣類等の洗濯を行う行為を身につけられているところです。引き続き、生活の中で金銭感覚を身につけていただくために支援をして参ります。



今後の 課題

障がいをお持ちの方でも地域の中で安心して暮らせるグループホームを目指したいと思います。このことを達成するためには入居者の方がこの地域の中の一員として地域の中の取り組みや催しに参加し、交流が図れる仕掛けづくりが必要だと感じています。

社会福祉法人宍粟市社会福祉協議会

www.shiso-wel.or.jp

【所在地】 兵庫県宍粟市

【対象者】 障がい者 等

【日常の活動】

- ・介護保険事業 ・地域コミュニティ事業 ・ボランティアセンター運営事業 ・一般共同募金事業
- ・歳末助けあい配分金事業 ・敬老会事業 ・生活福祉資金貸付事業 ・日常生活自立支援事業
- ・出会いサポートセンター事業 ・総合相談事業 ・配食サービス事業 他

「福祉学習の高齢者疑似体験教材購入」

【助成額】 44万円

実施目的

宍粟市社会福祉協議会では、「ふくしの出前講座」パンフレットを作成して学校の児童、生徒をはじめ、各事業所または一般の皆さんを対象に、あらゆるところで福祉を学ぶ機会を持ちだれもが安心して暮らせるふくしのまちづくりのために、福祉学習に取り組んでいます。その中の一つとして「高齢者疑似体験」があり、高齢者疑似体験教材の貸出をおこない、子どもも簡単に装着ができ、気軽に体験していただけるように活用していきます。

実施内容

学校、職場、自治会の公民館等で「ふくしの出前講座」を実施します。

今年度から新しく揃った教材でどの職員も対応できるように、事前打合せを行ってスムーズに取り組んでいく予定です。学校で行う場合、自治会で行う場合とパターンを想定し、体験内容や時間配分などの計画書を作成します。コロナ禍ですが、学校での体験学習にいつでも対応できるよう準備を進めていきます。

(具体的な内容)

例えば学校で行う場合は、約90分間とし初めに趣旨説明をパワーポイント等で行い、なぜこの体験を行うのかをしっかりと押さえます。その後2～3人1組で高齢者体験者、介助者、見守り者の役を決めて体験教材を装着し体験を行います。体験後はそれぞれが体験した感想などの意見交換を行い、参加者全員で共有します。体験を通じて、高齢者を知る事、高齢者や障がいのある方に対して思いやりの心を持つことなどを学びます。

得られた効果

福祉学習については、これまでも取り組んできました。今回、高齢者疑似体験教材を新調しましたので、各支部でバラバラの教材で行っていたものが統一されたことにより、どの職員も取り扱えることができるということは、体験場を増やすことが出来る事、時間のロスをなくすことと、気軽に体験ができることにつながります。今後、自治会内でもっとPRを行い、体験を進めていけると考えています。

今後の
課題

公的補助対象外であっても社協が担うべき必要な事業があります。自主財源の確保に苦戦している現状ですが、事業等の見直しや財源確保について役職員知恵を絞って社協の使命として行うべき事業、活動について整理と検討が今後特に課題となってきます。



特定非営利活動法人しさわ

<http://shisawa.jp/>

【所在地】 兵庫県宍粟市

【対象者】 精神障がい者

【日常の活動】

障害者就労継続支援B型事業

「餅製造事業にかかるボイラー交換事業」

【助成額】 46 万円

実施目的

当事業所のメイン事業であるお餅の製造やお餅で作る米菓子（おかき）をサラダ油で揚げた「あげおかき」の製造に欠かせない「もち米のせいろ蒸し」作業に使用するボイラーの新規入替をすることがこの事業の目的です。入替作業は、お餅製造を比較的行わない夏場を利用して実施しました。

実施内容

お餅製造は、もち米を前日に洗米し、これを翌日「せいろ」で蒸して炊き上げます。この「せいろ蒸し作業」に使用するボイラーの新規入替作業を上記の日に実施しました。

新規ボイラーの搬入と入替作業は、ボイラー購入先業者の（株）品川工業所に依頼し、搬入と旧ボイラーの撤去及び廃棄を行いました。

得られた効果

当該ボイラーは、当所で使う以前に別の業者が使用していたもので、平成 22 年 12 月に当所が譲り受けたものです。よって使用年数は 23 年を経過しており、いつ壊れても不思議ではない状態でした。

今回の助成金を活用して新型の同機種に更新したことで、ボイラーの故障などの事故への不安やリスクもなくなり、安定した作業が実施できる環境となりました。

また、ボイラーが新しくなったことで作業効率もあがり、当事業所のメイン事業である「お餅の製造販売」がこれまで以上に安定して実施できることとなりました。

今後の課題

- ①当施設は木造中 2 階建ての民家改修し、作業所として運営していますが、改修後 14 年が経過していますので、近い将来新しい作業所や事務所を建築する必要があります。
- ②親亡き後の利用者支援の一つとして、グループホームの建設が必要となっています。そのための資金や用地の確保が課題です。
- ③通所者の日々の生活相談や安定した工賃を継続していくためには、障害者福祉に熱意のある有能な指導者や職員が必要です。現状は職員の高齢化が進み、若い職員の採用をしていくことが必要ですが、そのための対応策と財政力の強化が必要です。
- ④地域とのふれあい活動を推進し、障害のある方もそうでない方も共に生きる地域づくり活動を進める必要がありますが、コロナ禍のもとでどのように推進していくかが課題です。



特定非営利活動法人和歌山自立支援センター

【所在地】 和歌山県和歌山

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者

【日常の活動】

就労継続支援A型事業所「ともにー」の運営

設立より、クリーニング店と長期の受託契約を結び、宿泊施設・ゴルフ場・理美容室・冠婚葬祭業・飲食業
その他多くのお客様が使用する、タオルの畳み作業やオシボリ加工、集荷業務を請け負っています。

「作業環境を改善する為のスポットクーラー購入」

【助成額】 42万円

実施目的

作業場建屋の構造上、大型洗濯機や大型乾燥機からでる熱が放出されず、クーラーの冷氣も届かず、非常に厳しい環境で作業する為、障がいのある方の、環境設備の充実を目的とします。
また、作業効率のUPなどの期待もあり、賃金向上も目的としています。

実施内容

■スポットクーラー3台の購入

洗濯機前・洗浄機前・作業場内に各1台ずつ設置

8月17日 注文

8月22日 納品

9月15日 支払い

得られた効果

暑い時期での納品でしたので、すぐに稼働し大活躍してもらいました。

10月に入り涼しくなったものの、現在も朝9時から夕方5時まで、みんなの為に働いてくれています。

暑く大変だった空間に涼しい風がくることで、ダラダラとなりがちだった作業が、しっかりと進んだ様に思います。
なにより笑顔が多くなり、職員が通った際は、毎回クーラーを指さして『イイだろ』みたいな身振りをしてくれる利用者さんもあります。

全員が暑く大変な時期を乗り切り、体調不良などで1人も休むことなく、作業ができた事は良い成果だと感じます。

今後の課題

現在、新しい作業場建設が計画にあり、少しでも多くの収益をあげ、貯金を増やし、良い環境で利用者さんと共に働ける場を作る事を課題としています。

また事業所は、現在は20名定員の25名の利用者さんに来てもらっており、新しい作業場が出来れば、もう少し多くの障がいのある方が、活躍してもらえるのかな！と期待もございます。

長年同じ環境で行ってきた暑く厳しい作業でしたが、大きな改善ができ、この経験を成長への1歩としたいです。





社会福祉法人リンク

【所在地】 岡山県倉敷市

【対象者】 発達、知的、精神、身体障がい者

【日常の活動】

早島町障害児（者）移動支援委託事業、井原市移動支援委託事業、岡山市移動支援委託事業、倉敷市移動支援委託事業、総社市障がい者（児）移動支援委託事業、早島町相談支援委託事業、倉敷市被災障がい者等相談支援委託事業、倉敷地域基幹相談支援センター運営委託事業、倉敷市障がい者地域生活支援委託事業、倉敷地域自立支援協議会研修会実施運営業務委託、倉敷市相談支援事業及び障がい者地域活動支援センター委託事業Ⅰ型

「ヒトノワ居宅介護支援用車両更新申請」

【助成額】 92 万円

実施目的

車両の全体的な老朽化に伴う居宅介護支援用車両の更新

実施内容

24 時間 365 日対応で、居宅介護、重度訪問介護、行動援護、移動支援を行っております。

居宅介護

身体介護…自宅で入浴、排せつ、食事の介護等を行います。

家事援助…料理や掃除、買い物等家事全般のサポートを行います。

通院等介助…通院や役所等での手続き、または事務所への見学に付き添いを行い、安心して通院や手続きができるようにサポートいたします。

重度訪問介護

重度の肢体不自由者、行動上著しい困難を有する知的障害者、精神障害者に対して自宅で、入浴、排せつ、食事の介護、外出時における移動支援等を総合的に行います。

行動援護

余暇活動として映画館や外食等にヘルパーと行ったり、買い物やお店での手続き等でお困りの際に安心して活動できるようにサポートいたします。公共交通機関を利用する練習としてもお使いいただいております。

得られた効果

利用者さんが住み慣れた地域での生活が継続できるようにするために、早島町・倉敷市に関わらず、総社市・岡山県・井原市等の遠方での支援も行っております。車両の全体的な老朽化、「過走行車」状態であったため不安を抱えながら支援に向かっておりましたが、安心して支援に向かえるようになりました。

今後の課題

居宅介護事業の中でも、高度な専門的知識を有する行動援護サービスを提供できる事業所は依然として少なく、行動援護従業者の養成が喫緊の課題として挙がっています。この現状の中、当事業所は従来から行動援護サービスにも力を入れており、利用者のニーズに応じてきましたが、今後ますます高まるニーズにも答えて続けていかなければなりません。そのために、ヘルパー従事に必要な資格を有しているが障がい分野には関わったことがない有資格者に対して、当事業所開催のヘルパー研修を行い、障がい分野に従事するヘルパー従事者数を増やし、経験を積んでもらうことで行動援護に従事できるヘルパーを養成していきたいと思えます。



特定非営利活動法人くらげ

【所在地】 岡山県倉敷市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

■就労継続支援B型事業所 ■共同生活援助

「2020年度地域福祉振興助成」

【助成額】 100万円

実施目的

ゴミ屋敷等の地域課題の解消と就労継続支援B型事業所に通う障がい者の工賃向上
生活困窮世帯においては収入の減少等で家賃が家計負担となり、より低額家賃の物件へと転居を望まれるも転居費用の捻出が困難である為、困窮状態が長期化してしまう等の問題がある。また本人の障害や特性等により自身で不用品の処分をすることが困難であることによってゴミ屋敷化してしまい不用品の回収費の捻出が困難である等の課題（ニーズ）が埋もれている。このような地域課題を就労継続支援B型等の福祉サービスにおいて安価な費用、分割支払い等の柔軟な支払い方法で行うことで地域課題の解消と、障がい者の就労訓練の場の確保、及び工賃向上に繋げていく。

実施内容

実施場所:倉敷市内(16 件)

内容:主に生活困窮世帯を対象とした転居の援助及び不用品回収事業を行っている。

●事業周知について

地域活動支援センター I 型、高齢者支援センター、市町村福祉課、生活困窮者自立支援事業者等の相談支援機関へパンフレットを配布し、相談者への情報提供を依頼している。また自社 SNS (facebook) も活用し事業周知を行っている。

●実施内容について

転居前の段ボールの梱包、不用品の回収、転居に伴う家具、家電の運搬、転居先の清掃、敷地内の除草作業等、依頼主の希望に応じて対応を行っている。

得られた効果

期間内実施件数:16 件(不用品回収 6 件、転居補助 10 件)

○地域課題の解決、減少に繋がっている。

実施件数 16 件(不用品回収 6 件、転居補助 10 件)の全件ともが地域の障がい者支援センターからの紹介であり、地域で暮らす障がいがある方を含む世帯の困りごとの減少に貢献することが出来ている。

○当事業所の工賃向上に繋がっている。

年間売り上げ(788,100 円)-年間費用(201,117 円)=年間利益(586,983 円)となっている。本事業により月平均 48,915 円の作業収入の増加となっており工賃向上に繋がっている。

今後の課題

- 新設 2 年の法人であり認知度が現状では低い為、活動に対して地域や関係機関等からの協賛が得られにくく周知活動が必要である。今年度は地域の障がい者支援センターからの繋ぎのみであったため、今後も他分野へ幅広く周知活動を行い、障がい世帯以外の困窮世帯にも対応していく。
- 利用者の平均工賃が現状では月額約 7,000 円程度であり全国平均、県内の平均工賃を大きく下回っている現状であり当事業所利用者の経済的自立の為、更なる工賃向上に向けて本事業の発展、新たなる取り組みが必要である。



特定非営利活動法人ひなたぼっこの会

【所在地】 岡山県倉敷市

【対象者】 精神障がい者

【日常の活動】

■就労継続支援B型 ■共同生活援助 ■指定特定相談支援事業

「ひなたの台所」フライヤー買い替え事業」

【助成額】 85 万円

実施目的

2 台の連結フライヤーで 2 種類の油温を使い分けが可能で、揚げ物ごとにフライヤーを分ける事でより効率的な調理が可能になる。また、導入する事により、室温を軽減でき、快適な作業環境を整えることにより作業の効率化を図る目的。

実施内容

「ひなたの台所」内の厨房にある老朽化したフライヤーの代替えとして、新規に二台連結されたフライヤーを購入した。



得られた効果

- ①フライヤーが、二層になったことで、天ぷら専用とフライ・唐揚げ等に分けて使用することが出来る。それにより、油の劣化も軽減出来た。
- ②2 種類の違う揚げ物を同時進行出来るようになり、作業の効率化を図れ大量注文を受ける事が可能になりました。
- ③今までの油掃除は、フライヤーの底にリング状の電熱線があり、油交換の際、掃除がとても手間でしたが、新しいフライヤーの底は、電熱線がなくフラットになっていて、とても掃除がしやすい。
- ④温度設定が、デジタルなので失敗なくカリッと揚げる事が出来る。
- ⑤涼しくなってきたので、何とも言えないが厨房内の温度も涼しくなり、快適になった。真夏は、厨房内が 45 度以上になるが、今から、来年の夏が楽しみです。

今後の課題

メニューが、マンネリ化しているため、新メニューの開発を行っていく必要がある。
毎日通ってくださるお客様・地域の皆様のためにも、手作りをモットーに安心安全な食べ物を作り、皆様に愛され続けるお店、ご利用者様の働く場・集いの場・憩いの場をこのまま維持し、売上UP、工賃UPを図る事が課題です。
具体的課題としましては、①原価率を抑える②販路の拡大③宅配の車の確保④人員の確保です。

特定非営利活動法人のぞみ

<http://ww41.tiki.ne.jp/~nozomi1201/>

【所在地】 岡山県総社市

【対象者】 精神障がい者、知的障がい者、身体障がい者、
発達障がい者

【日常の活動】

就労継続支援事業は、障がい者に就労機会の提供を通じ、一般就労へ移行できるように支援する。就労定着支援事業は、一般就労へ移行した障がい者について、就労に伴う生活面の課題に対して、就労の継続を図るために連絡調整や指導・助言を行う。児童通所支援事業は、心身に障がいまたは発達の遅れがある児童を対象に療育を行う。その他、法人の目的を達成するために必要な事業を行っている。

「相談支援事業所活動の車両整備」

【助成額】 87万円

実施目的

2020年度に相談支援・障害児相談支援を開設しました。障害福祉サービスを利用されている方や家族の方々への相談が届く体制づくりのため車両の整備をしました。

実施内容

実施場所は、岡山県笠岡市十一番町1-9。

実施内容

(1) 相談支援利用援助(相談支援利用計画案の作成等)

利用者の居宅等を訪問し、利用者及びその家族に面接して、利用者の心身の状況、その置かれている環境及び日常生活全般の状況、利用者等の希望する生活、解決すべき課題等の把握(アセスメント)をします。アセスメントにより把握された解決すべき課題等に対応するため、最も適切な福祉サービス等の組み合わせについて検討し、利用者及びその家族の生活に対する意向、総合的な援助の方針、生活全般の解決すべき課題、提供される福祉サービス等の目標及びその達成時期、福祉サービス等の種類等を記載した相談支援利用計画案を作成し、利用者等に交付します。

支給決定等を踏まえて相談支援利用計画案の変更を行い、福祉サービス等の担当者からなるサービス担当者会議を開催し、内容を説明するとともに、専門的見地からの意見を求めます。相談支援利用計画案の内容について、利用者及びその家族に説明し、利用者等の同意を得た上で相談支援利用計画を作成します。

(2) 継続相談支援利用援助(モニタリング報告書の作成等)

利用者及びその家族、福祉サービスの事業者との連絡を継続的に行い、相談支援利用計画の実施状況を把握(モニタリング)し、必要に応じて、計画の変更、福祉サービス事業を行う者等との連絡調整を行います。

得られた効果

車両の整備によって利用者や関係機関への訪問が、スムーズにできるようになりました。利用者の心身の状況、その置かれている環境等が把握できる成果が得られました。相談支援の業務をすることによって保健、医療、福祉、就労支援、教育等のサービスが提供されるよう効果的にはたらくものと思われます。

市町村、障害福祉サービス事業を行う者等との連携を図り、利用者とその家族が安心して過ごせるような効果がもたらせます。



今後の課題

障がい者の方やその家族の方々が、安心した生活を送ることができる社会を目指したい。障がいのある方がどのような生活の困難を抱えているのか、その状況をしっかりとアセスメントし、通常的生活が保障されるために解決すべき課題を明らかにし、支えるための具体的な手立てを一緒に考えていきたいと思っています。

特定非営利活動法人すまいる

【所在地】 宮崎県延岡市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

一般就労の難しい方々及び、一般企業への就労を目指す方々を支援する事業・就労継続支援B型（定員24名）
支援学校卒業生及び精神病棟からの退院者など社会復帰を目指す方々を支援する。生活訓練（自立訓練）
定員6名

「作業用軽トラック導入事業」

【助成額】 97 万円

実施目的

平成 16 年式の軽トラックを平成 19 年に購入し、13 年間使用しています。それに伴う老朽化により維持費・管理費の増加や整備・点検の時間を長く取られるなど業務として行う事の負担が大きくなってきました。特に老朽化による外装（塗装はげ）・内装（シートの破れやエアコンの不調等）の破損や故障は運用にも大きな支障をきたし改善が必要となっている課題でした。また、助成申請中に老朽化によるラジエーターの配管から液漏れが発生していることも確認されています。

実施内容

実施場所:特定非営利活動法人すまいる（宮崎県延岡市川島町 2733-1）において 4 輪駆動搭載軽トラックを購入する。

装備仕様:4 輪駆動切り替え、自動ブレーキ補助、冷暖房エアコン

主な使用用途:菌床運搬、農作業、配達等

主な使用は菌床椎茸栽培の菌床運搬となります。毎週菌床を企業から購入し運搬をするのですが引き取り先が山中の工場であり、道中に急な坂などがあり 4 輪駆動でなければ進むことが出来ません。その為に 4 輪駆動搭載車を希望しました。

農作業については利用者を同乗し廃菌床や農作物を運搬するので荷重のある状態での運行が基本です。その為に安全性の高い車両を揃え運行するのが望ましく、自動ブレーキ補助による通知や補助があれば職員の意識改善や安全運行の精度も高まります。

配達の際にも同様で、より安全な運行が出来れば利用者だけではなく職員の安全も確保でき、毎日使う頻度と貢献性の高い車両となります。



得られた 効果

職員の負担軽減と安全性の向上、維持費・管理費の削減

老朽化が原因で必要であった点検の時間や労費が無くなり、担当する職員の負担を減らす事が見込めます。これにより他の業務に割ける時間が出来、他の職員負担の軽減にも繋がります。特に助成が内定後、ラジエーターの不調が生じるなどしてオーバーヒートを起こしかけたこともありラジエーター液の補充を毎回行わなくても良くなったのは大きな整備時間の削減ができました。

自動ブレーキ補助により、職員の安全運転意識を高めより安全な運行を目指して活動していくことが目指せます。また、空調管理も出来るので猛暑や厳寒に利用者が感じる精神的・肉体的な負担を軽減して訓練に励むことに繋がります。

維持費・管理費については、上記にも記載した通りラジエーター液やエンジンオイルの点検・補充がなくなるだけでも費用が軽減され、通常点検で運用できる事により運行前の整備時間が大幅に短縮されます。

今後の 課題

すまいる作業所では、現状では2つの事業(就労継続支援B型、自立訓練)を行っており来年度は地域生活事業(グループホームの運営)を開設予定です。今福祉の事業では、利用者の欠員がある場合その分の報酬を受け取ることが出来ない為に利用者の定員を維持しなければならないという課題があります。そうしなければ報酬を得られず施設を運営できないからです。事業によっては利用期間が2年と定められているものや制度の運用が市町村に委ねられて統一化が難しいもの、国の政策(長期入院者の退院促進や地域に戻ってもらい地域社会で暮らす)などにより支援が単独の事業所では困難なケースも増えて利用者の方に施設を利用してもらうこと自体が難しい厳しい状況です。当施設も自立訓練(生活訓練)は2年の期間があり延長は基本出来ずここ1年定員6名に対して現員3名と利用者数が減少しています。

また、昨今様々な社会問題として虐待や権利の確保が問題となり取り上げられる機会が多くなりました。こういった問題に真剣に取り組む姿勢を社会に示すため福祉施設は率先して動くよう国からの通達があり情報を公開する為施設の運営は透明性を確保しなければなりません。ただ利用してもらうだけでなく、利用してもらう方に利用したいと思われる施設の運営と地域に貢献できる運営の透明性を示していくことがこれからの課題と考えます。



特定非営利活動法人ガジュマルの船

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 精神障がい者

【日常の活動】

※未実施で、今年度開設予定

障害者総合支援法に基づく特定相談支援事業所開設予定。

6月5日に神戸市の指定指導係への事前相談および書類提出予約をしており、通常、受付から2～3カ月で開設認可となる予定です。

対象は障害者（障害者手帳取得者または自立支援医療利用者）で、地域生活に必要な社会資源利用への相談支援をします。入院中の人々が居宅に戻る際の支援も対象です。公的な障害福祉制度利用だけでなく、インフォーマルな社会資源利用の情報提供も支援に含んでいます。

摂食障害や依存症の当事者を対象とする自助的な集まりの開催。

摂食障害や依存症に関する啓発活動として誰もが参加できる講座の開催。

依存症の本人が、症状以外での感情表出やストレスマネジメントを学ぶ機会としてのヨガ、ボディワーク、アート活動の開催。

有資格者によるヨガの個人セッションおよび職業アドバイス。

他グループと連携しての、摂食障害当事者のつながりと関心を寄せる人の学びの場としての共催講座開催。

いろいろな依存症関連団体と共催で仲間のつながりと啓蒙活動を目的としたフォーラムの開催。

摂食障害本人の就労体験の機会としてドライフラワーや小物の販売を予定しています。

「居場所兼障害者特定相談支援事業所開設」

【助成額】 40 万円

実施目的

この事業は、依存症当事者や家族が孤立して心身の健康を崩し、社会での居場所がなくなってしまうよう、仲間や社会・福祉資源とつなげることで、回復支援を目的としています。

事業のうち、公的補助を受けない活動としては、気軽に立ち寄れる居場所としてのミーティングの定期開催と、なかなか足を運ばない人へのつながり作りの会報発行、勉強会などを開催し、継続した回復の場をつくりました。

公的補助による障害者特定相談支援事業の開設は、仲間や地域の人で福祉制度利用が必要と思われる人への継続支援を可能にします。また他事業所とも連携して、広く適切な支援を活用してそれぞれの人が生きやすくすることを目的としています。

実施内容

2020年4月1日から神戸市中央区二宮町に事務所を借りて居場所作りをスタートしました。また6月1日からは特定相談支援事業所を開設しました。ところがコロナウイルス感染症予防のため自粛とソーシャルディスタンスを強いられた1年となり、今までのつながり（対面でのグループワーク、ボディワーク、勉強会）のスタイルの変更を模索するスタートとなりました。自助グループミーティングに関しては、自粛生活の中で仲間のつながりを作り孤立を防ぐため、4月下旬からすべてのミーティングをオンライン併用にしました。事務所は二階建てのため、人が多く集まった時は1階と2階をオンラインでつないでを行っています。5月からは（月）（木）の昼に、交流を深めるためのオンライン昼の雑談会を開き、継続しています。

また、ビギナーズミーティングを週1回、摂食障害当事者研究を約1カ月に1回、夏からは読書会を月1回、10月からはステップミーティングを月1回、11月からは(金)夜10時からのオンラインミーティングを毎週開催しています。事務所を他グループ(女性グループ、自傷者グループなど)への提供もしています。会報は今年3月で15号まで発行し、図書館や神戸市中央区社協への配布もしています。3月には摂食障害当事者研究のまとめ小冊子を作りました。相談支援事業所については、当初2人での相談支援員で始める予定でしたが、一人が病気で就労できなくなり、一人体制になりました。そのため開設日が週3回となったことと担当件数も少なくなり、家賃と給料の支払いが収入を上回って赤字状態が続いています。相談支援事業所を開設することで、他事業所とも横つながりができ、法人の会報を配布するなど、広報に勤めています。

得られた効果

この一年を通し、新型コロナウイルス対策で仲間とのミーティングのすべてをオンラインと併用にしました。ミーティング参加者(昼のあいさつ、ビギナーズミーティング、読書会、摂食障害当事者研究、12ステップ、ヨガと合気道の呼吸法)はオンラインも含めると延べ人数1000人以上となりました。他グループとの横つながりも大切に、必要な人にほかの自助グループ、施設の紹介も行ってきました。また相談支援事業を通して、各事業所と行政にもNPO活動を広報していきました。依存症当事者が、小さなつながりをたくさん作ることで、特定の人や団体に依存せずに自分自身の力でよくなっていくことを感じ、仲間というセーフティネットを持つことを重視してきました。ミーティングの効果や継続の希望を参加者にたずねたところ、生活リズム作りや孤立解消に役立っていると声をもらい、継続も希望されています。

会報や摂食障害当事者研究のまとめ冊子についても、オンラインやネット情報が主流な今でも、具体的に手にすることができ冊子はつながりを感じてもらう役に立っていると感想をいただいています。また、手にすることができる冊子はつながりを感じてもらう役に立っていると感想をいただいています。また、問い合わせをいただいた人への活動紹介として冊子を送ることで、参加検討の資料としてもらっています。それら紙媒体は、神戸地域の区社協、図書館にも置いてもらい、そこからつながった人もいました。

今後の課題

当法人のグループプログラムは公的福祉制度によらない自助活動ですので、公費収入はありません。現在のミーティング活動は、感染症予防の観点から全てオンラインと事務所併用で開いています。オンライン参加の人は増加傾向にあり、会場で集めている献金が非常に少なくなりました。しかし担当スタッフは各ミーティングに必ずついていますので、交通費や会場費(家賃、通信費、光熱費)がかかります。人件費も持ち出しになっています。また家でオンラインにないだけで依存症症状が出てしまうという仲間の声もあり事務所でのリアルな集まりはオンラインに替えることができないニーズがあります。昨年からのプログラムに加え、4月以降(月)～(木)の朝8時半～9時半に事務所とオンライン併用のミーティングを開いています。

言葉によるグループミーティング以外に楽しく時間を過ごす場を作るため、4月からは講師に来てもらいクラフト活動を毎週水曜日にやっています。また畑を借りて桑を植え、蚕の飼育を5月より始める計画をすすめています。その上で、一番の課題は当事者のミーティング中心の活動で、収入が期待できず、事務所維持費と人件費、講師謝礼が賄えないことです。もともと当事者同士の対等な関係の中で回復していくという姿勢は専門家に依存しないという意味でエンパワメントに最適な形だとの信念はありますが、どうやって場所を維持し、スタッフが安定して関わる収入を得ていくかは大きな課題です。

2020年度 選考委員

選考委員長

中田 智恵海

特定非営利活動法人ひょうごセルフヘルプ支援センター 代表

福田 好宏

社会福祉法人兵庫県社会福祉協議会 副会長兼常務理事

松本 博子

社会福祉法人兵庫県共同募金会 事務局長

松端 信茂

一般社団法人兵庫県知的障害者施設協会 会長



公益財団法人木口福祉財団

〒659-0051 兵庫県芦屋市呉川町14番10号

TEL 0797-21-5150

FAX 0797-35-4500

e-mail josei@kiguchi.or.jp URL <http://www.kiguchi.or.jp>

2021年11月発行